週刊 YEAR BOOK

1991
平成3年

日録20世紀

12|22
平成10年12月22日発行
(毎週1回火曜日発行)
第2巻第48号 通巻91号
平成10年8月21日第三種郵便物認可
¥560
講談社

雲仙普賢岳、恐怖の大噴火!

「湾岸戦争」勃発! 日本、130億ドル負担の構図
住銀、野村、興銀など金融犯罪続出と"闇の紳士"
ゴルバチョフの思惑を超えた「ソ連邦」消滅!

被害総額2300億円、1万1012人が避難生活
6月3日、時速100キロの大火砕流は43人の命を奪った
雲仙普賢岳、恐怖の大噴火！

▲6月8日午後7時51分、最大規模の火砕流が地獄跡火口の東斜面を駆け下る。先端は火口から約5.5キロ下の国道57号線近く、有明海まで約1.6キロの地点に達した。 朝日新聞社（3点とも）

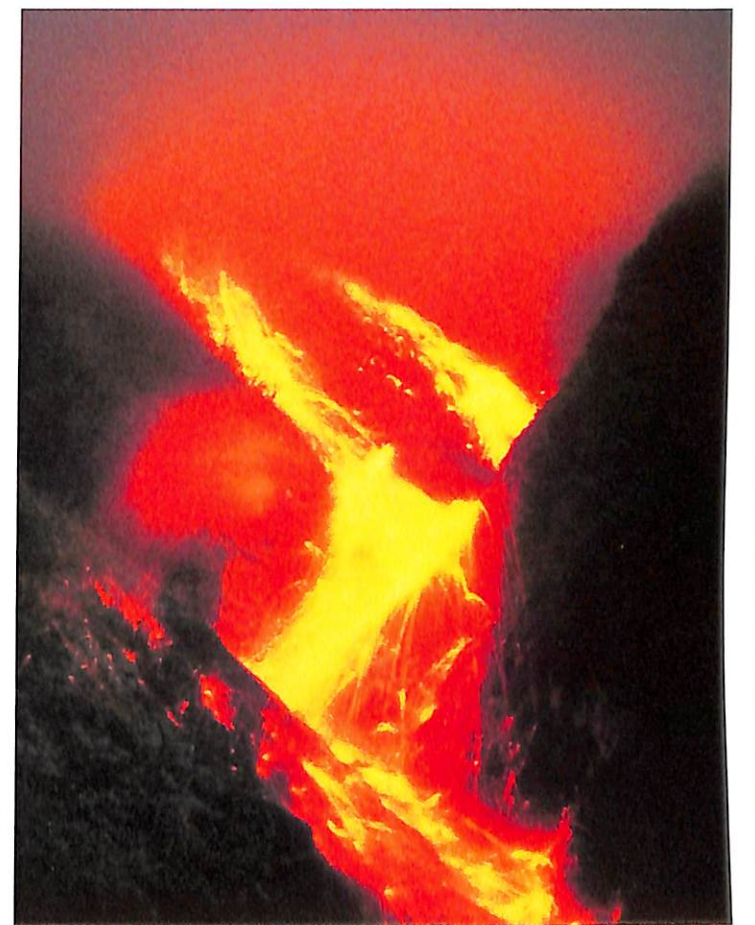
▲5月20日、普賢岳の地獄跡火口に、溶岩ドームが形成されたことが確認された。 共同通信社

平成三年六月七日、島原市は、雲仙普賢岳の噴火により人命の安全を考え、市内の住宅地を立ち入り禁止の警戒区域に設定した。自然災害で、住宅地が警戒区域となったのは史上例を見ない。一九八年ぶりという普賢岳の大噴火による島原地方の被害の傷跡は、火山活動終息後、癒えるどころか今も深刻さを増している。

駆け下った大火砕流が山裾にいた人々を直撃

平成三年六月三日、午後四時をまわったばかりの時だった。「ザーッ」とも「ドーン」ともつかない轟音とともに、建物の電気は消え、夜でもないのに周辺が真っ暗闇になってしまった。雲仙普賢岳山麓の眉山にある窯元に勤務していた松前隆美さん（三八）は、自分のいる建物が土砂に埋まってしまったのかと思った。おそるおそるドアを開けてみると、外からものすごい熱風が入りこむ。取材陣はじめ四三人の命を奪った大火砕流が駆け下った直後のことだった。時速一〇〇キロにも達する猛スピードを持つ火砕流は、一瞬のうちに山麓まで達したが、眉山がついたてとなって窯元は直撃をまぬがれたのである。松前さんは、あわててドアを閉め、しばらく後に再び開けてみると、建物脇に停めておいた通勤用の車は、焦げた木の下敷きになっていた。

普賢岳の様子は明らかに普段と違っていた。この日の島原地方は厚い雲におおわれて、普賢岳の火口はまったく見えない。だが、少なくとも一時間あった火砕流が発生する間隔は、異常に短くなって

▲8日に発生した火砕流の火山灰と溶岩片が、山麓の水無川を埋めつくし、川ぞいの民家など73棟が炎上した。一夜明けた9日、国道57号線手前の札の元町付近で撮影。

▶5月29日、1359メートルの山頂から山腹を流れ落ちる溶岩流。普賢岳は、平成3年5月以降活動が一層活発化し、6月3日には、火砕流による死者·行方不明者が43人にものぼる大惨事が勃発した。

◎表紙　雲仙普賢岳は、平成2年11月17日、198年ぶりに噴火し、その後小康状態を保っていたが、3年2月12日に再噴火。以後火山活動は、7年5月まで間断なく続く。 共同通信社

▲6月3日、島原市下川尻町の県立島原温泉病院には、火砕流による負傷者が次々と搬送され、飛びかう医師の指示とうめき声で院内は騒然となる。　読売新聞社

いた。記録によれば、この日、午後三時台には四回もの火砕流が発生している。

すぐに逃げなければならないと感じた松前さんは、聴覚に障害のある子どもさん二人を連れて表に出た。外はサウナ室のような熱さだった。徒歩で逃げるしかない、と松前さんは覚悟した。道には、高温の灰が一〇センチ以上も積もり、靴の底はすぐに溶けてしまった。

「靴下だけで夢中で走りましたが、地面は真夏の浜辺の砂よりもずっと熱く、そのうえ真っ黒に焼けこげた死体やら、炭のようになったパトカーを見て、子どもたちはショックで歩けなくなってしまいました。私たち親子が助かったのは、たまたま急を聞いて助けに戻ってくれた人の車に拾われたからでした」（松前さん）

松前さんのいた窯元は、危険な場所とは思われていなかった。むしろ、取材↖

▲灰をかぶり、窓ガラスを吹き飛ばされたパトカー。6月3日午後7時、島原市上木場地区で発見された。　共同通信社

被害総額2300億円、1万1012人が避難生活
6月3日、時速100キロの大火砕流は43人の命を奪った

雲仙普賢岳、恐怖の大噴火！

シャッターを押す間もなく

平成2年秋からの普賢岳噴火災害では、合わせて死者44人を出したが、そのうち43人は平成3年6月3日の大火砕流によるものである。被災した人の中で、最も多いのが報道関係者の16人だった。彼らは、火口から約4キロ離れた上木場地区に取材前線基地を設営していた。「定点」と呼ばれたその場所は、カメラアングルなどの点から火砕流や土石流の撮影に最適で、安全性も確保できると考えられていた。火山学者が同じ場所で観測していたことも、報道陣に安心感を与えた。火砕流のスピードは時に時速100キロを超える猛烈なもの。被災者たちは不意打ちにあい、収容された遺体の中にはシャッターを押そうとするかのように、右手の人差し指が曲がった状態のものもあった。

一瞬のうちに襲いかかった1000度にも達する熱波は、秒速30メートル近い猛スピードで通りすぎていった。したがって被災者の死因は、熱による呼吸不全がほとんどだった。報道陣のカメラの多くは、ストラップが焼けこげた以外はほぼ無傷のままで、迫りくる火砕流の様子を撮影した写真も残されている。また、遺体付近で、周囲がこげてはいるが判読可能な取材メモが発見された。

◀大火砕流で殉職した読売新聞写真部記者・田井中次一氏の愛機「ニコンF4」。灰ですすけているが、大きな損傷はなかった。　読売新聞社

◀谷を出て扇状に広がった、6月3日の火砕流。"焦熱地獄"に襲われた島原市上木場地区で、翌4日撮影。　読売新聞社

陣などが安全な息抜きの場として、かわるがわる訪れていた。その中にはこの日の火砕流の犠牲となった、フランス人火山学者・クラフト夫妻もいた。

「マスコミ関係者や学者まで来られるので、すっかり安心していました」（松前さん）

事実、この日の大火砕流の被害者の多くは、松前さんのいた窯元よりも山裾近くにいた人々だった。

島原市は経済活動が麻痺 住宅密集地が警戒区域に

普賢岳が一九八年ぶりに噴火したのは、平成二年一一月一七日朝のことだった。そして火山活動は、平成七年五月二五日に一応の終息宣言が出されるまで、約四年半にわたって続いた。

地獄跡火口から吹き出す溶岩は、次々にドームを作り、一定量に達すると溶岩流や火砕流となって、麓の島原地方を襲った。この年の五月以来、火砕流は連日発生し、多い時で一日二〇回、そして平成八年の五月までに、合計九四三二回も発生している。また火山噴出物の上に雨が降ると、それはすぐに土石流となり、中には直接海にまで達するものもあった。そして周辺の民家、農地、交通施設などを埋没させ、破壊しつくした。

土石流や火砕流による直接の被害だけではなかった。粘着性のある降灰は、島原のタバコ畑など作物や牧草を壊滅させた。水をかけたくらいでは落ちない灰が、毎日降り続いたからである。地元の足である島原鉄道は寸断され、もうひとつの主要産業である観光も、訪れる客があるはずもなく開店休業状態となった。

要するに島原は、経済活動が麻痺し、住民の姿もまばらな"ゴーストタウン"と化したのである。

こうした中で、地元の島原市や深江町は、平成三年六月、いっさいの立ち入りを禁止する警戒区域と、避難勧告地域を相次いで設定した。火山活動の状況によりこの地域指定は変更されたが、最大時には、両市町合わせて二九九〇世帯、一万一〇一二人が自宅を離れ、避難所あるいは仮設住宅生活を強いられた。そして、地域指定は徐々に縮小されはしたが、おもな地域が指定解除となるのは、約二年後の平成五年三月三一日を待たなければならなかった。

島原は乳牛飼育がさかんだったが、警戒区域の設定で手放す農家が続出し、価格は暴落した。一頭三〇万円が相場だが、足元を見られ、泣く泣く一割程度で売った例も枚挙にいとまがない。

この地域指定は、日本の災害史上でも特異な位置を占めている。人が現に住んでいる地域を警戒区域としたからだ。警戒区域の設定は災害対策基本法に基づくものだが、住宅密集地が警戒区域にされた例はこれまで一度もなかった。

当時、この苦渋の決断をした前島原市長の鐘ケ江管一氏（現・六〇歳）が言う。

「四三人の人命が失われた六月三日から、決断するまでの数日間は、寝ることもできず悩み続けました。経済的補償もなく、住民の生活権を奪うことになるからです。しかも正直に言えば、警戒区域を線引きする根拠は何もなかったのですから」

結果的に市長の決断は正しかった。以後、大火砕流により、民家の焼失など大きな被害を受けはしたが、人的被害は皆無だったからである。

長崎県の推計では、普賢岳噴火災害の被害総額は二三〇〇億円とされる。これは島原市の年間総生産の二倍に相当する。また、これまでに投じられた復興予算は二五九〇億円（平成八年度までの累計）に達した。だが火山活動終息以降も、島原の被害は拡がりつつある。仕事を求めて若年層が流出、市の高齢者率は二〇パーセントを超えた。被災以降の人口減も約一割、四〇〇〇人に達している。漁獲高は、年とともに減少の一途をたどっている。不況の追い打ちもあり、倒産したホテル跡が更地のまま放置され、観光汽船会社の経営がゆき詰まるなど、噴火被害は今現在もけっして終わってはいない。

「油まみれの水鳥」ヤラセ映像が象徴する米国流〝正義〟の矛盾

「湾岸戦争」勃発！——日本、戦費一三〇億ドル負担の構図

イラクのクウェート侵略が発端となった「湾岸戦争」で、米国中心の三一ヵ国からなる多国籍軍は、イラク軍を相手に圧倒的勝利をおさめた。参加国中では最高額の一三〇億ドルもの戦費を負担し、〝超法規的〟措置で自衛隊機の中東派遣まで行った日本政府だが、またしてもこの戦争で危機管理の甘さを露呈。独自の構想を欠いたまま、米国相手の「言い値外交」を繰り返した。

▲2月25日、地上戦開始後、多国籍軍の捕虜となり、サウジアラビアへ送られるイラク軍兵士たち。 Jacques Langevin Sygma IPJ

イラクにミサイルを発射「砂漠の嵐」作戦の幕開き

「閃光が尾を引いて空中に上がっていきます。星の爆発、暗黒の空で星が爆発したみたいです」

CNNテレビのバーナード・ショー記者が、「湾岸戦争」の戦闘開始を実況中継し始めたのは、一九九一年一月一七日午前二時三〇分（現地時間）。その三〇分後、米戦艦「ミズーリ」をはじめとする軍艦九隻が、イラクの首都・バグダッドにトマホークミサイルを連射した。

一発一三五万ドル（約一億八〇〇〇万円）と言われる時速約八八五キロのトマホークの閃光が夜空を行きかい、次々とイラクの通信指揮センターや弾道ミサイル発射基地などを爆破。第一波攻撃に続いて、英国のトルネード攻撃機、フランスのジャガー攻撃機など多国籍軍数百機が、バグダッド宮殿や国防省などを破壊した。

空爆開始直後、米国のフィッツウォーター報道官が、第二次世界大戦時のアイゼンハワー将軍の言葉を引用したブッシュ大統領（六七）の声明を読みあげる。↖

ロイター サンテレフォト

◀1月6日、国営テレビ放送を通じて、戦争にともなう犠牲を覚悟しなければならないと、イラク国民に呼びかけるフセイン大統領。

「クウェートの解放が始まった。同盟諸国の軍隊と共同して、アメリカ合衆国は、『砂漠の嵐』作戦のコードネームのもとに、国連安全保障理事会による要求を実行し始めた……」——これが、一日の戦費五億ドル（約六七五億円）とされ、約四〇日間にわたり、ハイテク兵器と計八万八五〇〇トンもの爆弾を使用した「砂漠の嵐」作戦の幕開きだった。

「湾岸戦争」の発端は、一九九〇年八月二日のイラク軍約三五万人によるクウェート侵攻だった。ブッシュ米大統領は、「クウェートがイラクの油田を盗掘している」という理由で侵攻したイラクのサダム・フセイン大統領（五四）のねらいが、石油市場の支配にあると反発。経済制裁に加え、一一月二九日には、イラクがクウェートから一九九一年一月一五日までに撤退しない場合の軍事制裁を認める「国連決議六七八号」の採択を取りつけた。

と同時に、多国籍軍六九万人による包囲網を形成。撤退期限をすぎたこの年一月一七日、ついに開戦に踏み切ったのだ。

一八日未明には、イラクもスカッドBミサイルでイスラエルのテルアビブなどを攻撃し反撃に出るが、米国の情報操作やハイテク兵器の前に、二月二四日に始まる地上戦でも惨敗。同月二六日、クウェートを撤退し、二八日には停戦する（多国籍軍の死者一六六人、イラク側は二万五〇〇〇～四万人とされるが詳細不明）。

最高額の戦費を出しても蚊帳の外におかれた日本

日本政府が——憲法の「九条」に抵触する戦争当事国への戦費支出の法的根拠を曖昧にしたまま——米国の要請どおりに四〇億ドルの中東支援策を発表したのは、前年八月二九日と九月一四日だった。

さらに政府は九月一九日、臨時閣議で「国連平和協力法案」を決定し、ただちに国会に提出。日本の米国に対する協力姿勢を明らかにした。にもかかわらず、米下院軍事委員会は、湾岸危機への各国貢献度を発表し、日本には合格スレスレの「C」評価をつけたという。

そうした中での開戦だったが、海部俊樹首相（六〇）が、戦争突入の通告をベーカー国務長官から受けたのは、開戦時刻とほぼ同時刻の一月一七日午前八時三〇分頃。九時三八分、政府はあわてて首相官邸地下一階の小食堂に「湾岸危機対策本部」を設置する。

「日本の対策本部の設備はサミット（先進国首脳会議）参加国の中で一番ひどい。三二台の電話や四台のワープロは持ちこんだものの、各国の時間が一日でわかる

▲クウェートを占領しているイラク軍と一戦交えるため、サウジ北部に向かう米戦車隊。1月26日撮影。 AP WWP

時差時計もなければ、複数のチャンネルが同時に見られるように何台ものテレビが用意されることもなかった。第一、声が簡単に外にもれる部屋で、情報管理はできません」

危機管理問題の専門家で元内閣安全保障室長の佐々淳行氏は、そう語る。

にわかにできた危機管理の砦は、金はむしり取られても蚊帳の外におかれている日本の立場、政府の情報収集力や分析能力の低さを如実に露呈するものだった。

にもかかわらず、海部首相は一月一八日、九〇億ドル（一兆二〇〇〇億円）の追加支援と、被災民を移送する自衛隊機の派遣案を表明。「憲法の平和主義、国際協調主義に合致する」と主張し続け、一月二五日には「湾岸戦争」だけの特例政令という〝超法規的〟措置で、自衛隊機の海外派遣を決定した。

ところが、日本のこの歴史的決断の理由となった「湾岸戦争」の〝正義〟や〝国際協調〟に疑問を投げかけるのが、評論家の山川暁夫氏だ。

「ヤラセが判明した『油まみれの水鳥』映像をはじめ、米国のかざした正義には数々の矛盾がありました。それどころか、イラクがクウェート侵攻時に内務省公安総局で押収した極秘文書によって、米国のCIAがクウェートを侵攻するように仕向けた疑いさえ指摘されている。『湾岸戦争』は、米国が中東での軍事プレゼンスを確保し、石油を支配するために仕掛けた疑惑が強くあるわけです」

事実、米国は以後も中東に兵力二万五〇〇〇人を維持。クウェートの復興事業をほぼ独占し、英国系銀行は米国系に取って代わられた。

結局、米国が一人勝ちした戦争を、世界中で最高額の一三〇億ドルの戦費支出（後に円安で目減りした分五億ドルを補塡）、歴史的な自衛隊機派遣までやって支えたのが、日本だったわけである。

国際基督教大学の功刀達朗教授も、日本政府の対応を次のように指摘する。

「『湾岸戦争』は、日本に平和国家としての姿勢を問うものでした。実際、政府は、多国籍軍に財政支援し、自衛隊機や掃海艇を派遣して、国連のPKO活動に自衛隊員が参加する道を開いた。

結局、冷戦後の米国一極支配による新しい覇権秩序に、日本がみずからを組みこませた転回点――それが、日本にとっての『湾岸戦争』だったんだと思います」

▲自衛隊初の海外派兵「ペルシャ湾掃海派遣部隊」第1陣3隻が、4月26日に横須賀基地を出航。 読売新聞社

▲バグダッド爆撃で家を失い、茫然として座りこむ60歳の女性。 朝日新聞社

▲パウエル米統合参謀本部議長（左）とシュワルツコフ米中東軍司令官。 ロイター サンテレフォト

女たちの肖像

宮沢りえが残したかった一八歳の〝きれいな自分〟『Santa Fe』発売！

稲葉真弓

この年の一〇月一三日と一四日、「読売新聞」「朝日新聞」に全面広告が載った。女優・宮沢りえのヘア・ヌード写真集『Santa Fe』（朝日出版社）の予約受付開始の広告だった。これが、日本列島を彼女のういういしい〝ハダカ〟でいっぱいにする騒動の始まりだった。発売日の一一月一三日、全国の大手書店は老若男女であふれ返り、東京のある本屋では混乱をおそれ、予約券を持った人だけに裏口で本を渡したほど。日本だけではなく香港でも海賊版が出まわる社会現象となり、初版二〇万部は、最終的に一五五万部という〝怪物的〟部数にまで膨れあがったのである。

宮沢りえはこの写真集発刊の動機を、撮影した篠山紀信との対談で「一八歳の今の〝きれいな自分〟を撮っておきたかった」と語っている。当初は〝個人的な記念〟のつもりだったのが、バブルの波に乗って、あれよあれよとフィーバー、ヘア・ヌード写真集ブームの呼び水ともなった。

昭和四八年、東京に生まれた彼女は、日本人の母親とオランダ人の父親を持つハーフ。小学校五年生の時、町でスカウトされ、子ども服のモデルとしてデビュー。六二年、三井リハウスのテレビコマーシャル「転校生・白鳥麗子」役でたちまち人気をさらった。六三年には「ぼくらの七日間戦争」で映画デビューし、毎日映画コンクールの新人賞を受賞。加えて宮沢りえの名前を決定的にしたのが、平成二年の「ふんどしルック」カレンダーだった。

仕掛人は、〝一卵性双生児〟とも言われる母親の光子。以後、彼女は「平成のヴィーナス」「平成のモナ・リザ」と、人気絶頂のアイドルとなった。

が、この後の彼女には不運が続く。平成四年一一月、相撲界のスター・貴花田（現・貴乃花）と婚約。「平成のカップル」と騒がれたが、翌五年一月、婚約からわずか二ヵ月で破局記者会見。一時は歌舞伎界の旗手・中村勘九郎、市川右近との恋の噂も流れたが実らず、摂食障害による激ヤセが報じられた。六年九月には京都のホテルでの自殺未遂事件、七年には映画「蔵」のヒロイン役降板で、マスコミをにぎわした。

こうした不運を払拭するように、翌八年一月、ロサンゼルスに渡りサンタモニカに在住、充電をはかり、一〇年夏、フジテレビの人気ドラマ「北の国から'98時代」では久々に〝女優の顔〟を見せた。

▲映画「豪姫」やNHKのドラマ「青春牡丹灯籠」にも出演。 朝日出版社提供

勝者・敗者

「どつきあって金になる！」八戦目で世界王者になった辰吉丈一郎得意の喧嘩殺法

阿部珠樹

一〇ラウンド終了間際、左のフックが相手の顔面をとらえた。隙が見えた。辰吉丈一郎（二一）はそれを見逃さなかった。すかさず、大きな右フックをぶち当てる。それからはもう夢中だった。ゴングが鳴らなければ、いつまでも腕を振りまわし続けていただろう。一分間のインターバルが終わっても、相手はコーナーの椅子から立ちあがることができなかった。

平成三年九月一九日、大阪・守口市で行われたWBC世界バンタム級タイトルマッチ。チャンピオンのグレグ・リチャードソンと挑戦者・辰吉丈一郎の試合、辰吉は、一〇回終了TKO勝ちで王座を射とめた。デビューからわずか八戦目だった。

倉敷市出身の辰吉は、典型的な不良少年だった。男手ひとつで育てられた寂しさをまぎらわすため、喧嘩に明け暮れる毎日。父はその子にボクシングを教えた。どつきあって金になるなら、こんなにいいことはない。早く拳でおやじを楽にしてやりたい。そんな気持ちで飛びこんだプロの世界。素質は飛び抜けていた。予選で体調を崩さず出場していれば、ソウル五輪でのメダルも期待されたボクシングセンスの持ち主である。プロ入りしてからは敵なしの五連続KO勝ち、その後一分けをはさんで判定勝ちと、無傷の進撃を続けていた。

それでも八戦目の世界挑戦は、「早すぎる」「無謀」と見られていた。だが相手が弱みを見せたら、絶対に見逃さず、確実に仕とめる、不良少年時代からつちかった〝喧嘩殺法〟は、世界の壁も難なく乗り越えてしまったのだ。

勝った後、辰吉は人目もはばからずに号泣した。涙もろいのも、不良少年の特徴である。

警戒心が強すぎるあまりの道化た言動、リングの上での派手なパフォーマンス、涙もろくて、わがままで、まるでマンガの主人公そのものの辰吉は、たちまち人気者になる。

その後、辰吉をしのぐ人気ボクサーは、いまだに現れていない。

▲辰吉のアマ戦績は、19戦18勝（18KO）1敗。 日刊スポーツ

ニュース・ファイル 1991

フォト＋日録で再現する365日

年明け早々、湾岸戦争が勃発。日本政府は九〇億ドル（約一兆二〇〇〇億円）の追加支援を決定。一方、「バブル経済」の崩壊は、イトマン事件、証券・金融不祥事の続発となって始まった。八月、ソ連は保守派クーデターの失敗で解体の度を速め、年末、ついに六九年間の幕を閉じた。

◀**チェルノブイリの子どもたち来日（7月23日）**5年前の原発事故で離郷した28人が、ボーイスカウト連盟の招待で成田に到着。新潟・長野でホームステイするなど、きれいな空気と家庭のぬくもりをプレゼントされた。

共同通信社

1月

▶**田部井淳子（51）、六大陸最高峰征服（1月19日）**南極最高峰・ビンソンマシフ（4897メートル）に登頂。昭和50年のエベレスト制覇以来16年、世界で女性初の快挙だった。

読売新聞社

◀**ソ連製短銃を押収（1月14日）**警視庁が埼玉・草加の塗装業者を逮捕。写真は、押収の18丁と実弾。ソ連軍用トカレフだったが、中国製の廉価品が大量に出まわり始めていた。

共同通信社

▲**列車とタンクローリーが激突（1月8日）**北海道のJR日高線・勇払－苫小牧駅間の踏切内に、車が立ち往生。列車運転士と乗客49人が重軽傷を負った。タンクにはガソリンなどが満載されていた。

読売新聞社

▶**大関霧島（31）、遅咲き初優勝（1月27日）**大相撲初場所千秋楽、横綱北勝海を吊り出し。史上最長、初土俵以来96場所目にはたした栄冠だった。

読売新聞社

▶**モンテカルロ・ラリーで日本車初優勝（1月30日）**各地で13戦を行う、世界ラリー選手権の第1戦で、スペインのサインツの乗るトヨタ・セリカ（写真）が1位。4位にもトヨタ車が入った。

◀**坂本龍一（39）にゴールデン・グローブ賞（1月19日）**ベルトルッチ監督「シェルタリング・スカイ」で、ホロウィッツと最優秀作曲賞を共同受賞。3年前の「ラストエンペラー」に続き2回目。

AP／WWP

AP／WWP

平成3年1月

1（火）●東京二三区内の電話局番号が四桁に。
2（水）●バルト三国、ソ連軍に軍事不介入要求の声明。
3（木）●中国・雲南省の梅里雪山登頂の京大など日中登山隊の一七人遭難（平成10年遺体収容開始）。
4（金）●前年の交通事故死亡者は一万一二二七人、過去一六年間で最悪、と警察庁。
5（土）●一三歳男子の平均身長一五八チセン、一一歳女子は一四六チセンで九〇年前の二〇歳並みと文部省。
6（日）●EC加盟一二ヵ国を結ぶ新幹線計画スタート。
7（月）●欧州旅行中に消息を断った日本人三人が、北朝鮮に滞在と外務省の調べで判明。
8（火）●仕手戦がらみの巨額脱税で起訴されている、稲村利幸元環境庁長官が議員辞職願いを提出。
9（水）●米の日本人所有ゴルフ場は一二〇、と新聞に。
10（木）●ソウルの日韓外相会談、在日韓国人の指紋押捺の二年以内廃止で合意、覚書に署名。
11（金）●ソ連軍、リトアニアに侵攻（13日市民に発砲し一三人死亡。15日ラトビアにも侵攻）。
12（土）●セゾングループ代表の堤清二が引退を表明。
13（日）●都銀一一行で日曜日の預金引き出し業務開始。
14（月）●東京国税局、イトマン前常務・伊藤寿永光の自宅などを脱税容疑で捜索（イトマン事件）。
15（火）●岐阜・笠松競馬出身の人気馬「オグリキャップ」に岐阜県スポーツ栄誉賞が贈られる。
16（水）●電力九社、ゴミ発電の購入費二倍値上げ決定。
17（木）●多国籍軍がイラクを空爆、湾岸戦争始まる。
18（金）●福島県の中学二年の男子が英で心臓移植手術。
19（土）●田部井淳子が南極大陸の最高峰に登頂し、女性として世界初の六大陸最高峰を制覇。
20（日）●総務庁、輸入食品の安全性検査不十分と発表。
21（月）●イラクが空爆への「盾」で戦略拠点に捕虜収容。
22（火）●日本の南極地域観測隊、世界初の周回気球による南極大陸一周観測に成功。
23（水）●米国経済の景気後退を米政府が言明。
24（木）●日本政府、多国籍軍への九〇億ドルの追加支援決定（31日、政府、財源に石油など増税と決定）。
25（金）●車庫法改正で、軽自動車にも車庫義務づけ。
26（土）●東京・文京区、区費による野良猫の避妊開始。
27（日）●総務庁調べでパチンコが一五兆円産業に成長。
28（月）●原油の中東依存度は七一・五％と通産省。
29（火）●法制審議会、夫婦別姓の審議を始める。
30（水）●平壌で日朝国交正常化の政府間交渉開始、日本が初めて過去の歴史に遺憾の意を表明。
31（木）●全農中、社宅建設用に遊休農地活用を決定。

▲皇太子徳仁親王（31）が立太子礼（2月23日）皇居宮殿「松の間」で、天皇・皇后両陛下を前に宣明の儀。皇位継承者であることを内外に披露。皇太子は、力を尽くしたい、と決意を表明した。

読売新聞社

▲東北道で玉突き事故（2月26日）福島県桑折町で、20台が次々衝突。2人死亡、13人が負傷した。四輪駆動車が凍結路面で滑ったのがきっかけだった。

ロイター／サンテレフォト

◀デクラーク南ア大統領、アパルトヘイト撤廃宣言（2月1日）前年には黒人解放運動組織ＡＮＣの議長・マンデラを27年ぶりに釈放。南アの民主化を進めた。

共同通信社

▼美浜原発2号機、自動停止（2月9日）福井の関西電力原子力発電所で、蒸気発生器の細管が破れて放射能を含む冷却水が漏出。炉心停止装置が緊急作動する、日本初の大規模な事故となった。

読売新聞社

▲札幌で大雪（2月）平年の480センチを上回り、観測史上最高の637センチを記録、被害が続出した。写真は雪の重みで倒壊した石造倉庫。車18台が大破した。

読売新聞社

▶新都庁舎、一般公開（3月）4月開庁を前に、地上48階、高さ243メートル、日本一の豪華高層ビルが公開された。設計・丹下健三。6日間に17万人が見物した。

平成3年2月

1（金）●南アのデクラーク大統領、アパルトヘイト根幹法撤廃宣言（6月17日アパルトヘイト終結）。
2（土）●ヨルダン、自衛隊機の日本人移送に同意。
3（日）●伊共産党、左翼民主党と改称。
4（月）●第一勧銀、合併二〇年で人事部を一本化。
5（火）●鈴木都知事が四選出馬表明（7日、NHKの磯村尚徳、自・公・民の共同候補として出馬表明）。
6（水）●外国人留学生急増、平成元年より三二％増の四万一三四七人と文部省。
7（木）●国語審議会、外来語表記に「ヴァ、トゥ」など原音に近い表記三三音の使用認可を答申。
8（金）●大蔵省、ノンバンクの貸付残高は五七兆六四〇〇億円で四割が建設、不動産関連と発表。
●福井県美浜原発で、国内最大級の冷却水もれ事故（21日柏崎原発、22日女川原発で事故）。
9（土）●東京で日本初の臓器移植患者の会結成。
10（日）●医療費不正請求六九億円は過去最高と厚生省。
11（月）●英国、一六五年ぶり宝籤を復活へ。
12（火）●南北朝鮮が千葉で行う世界卓球選手権に統一チーム結成で合意（4月24日「コリア」で出場）。
13（水）●ノルディック世界選手権で、三ケ田礼一ら日本の男子複合団体で総合三位、初のメダル。
14（木）●米国旅客機、日本人乗客がゴミ袋を爆弾と発言したため成田に緊急着陸。乗客を逮捕。
15（金）●初の女性向け夕刊紙「エルコン」発刊。
16（土）●政府、自衛隊による政府専用機の運航を決定。
17（日）●作家・瀬戸内寂聴、湾岸戦争反対の断食に入る。
18（月）●ゴミとなった廃船が全国三〇〇〇隻と新聞に。
19（火）●農協が秋から「JA」へ略称変更を決める。
●若者の〝朝シャン〟ブーム去る、と新聞に。
20（水）●高卒者の就職内定は最高の九二％と文部省。
21（木）●東京でダイヤルQ利用のテレクラ経営者を労基法違反で逮捕、女子中高生六〇人を補導。
22（金）●イラクがクウェートの油井に放火と米軍発表。
23（土）●皇太子徳仁親王、立太子宣明の儀。
24（日）●湾岸戦争地上戦へ突入（26日、イラク軍撤退宣言。27日、米大統領、勝利宣言）。
25（月）●佐川急便グループ、三五億円申告もれ発覚。
26（火）●中国、長江をせき止める三峡ダム計画に着手。
●スペインでバス事故、日本人観光客九人死亡。
27（水）●青森―宮崎間で自衛隊機による米軍輸送を開始。日本の湾岸戦争間接支援。
28（木）●JR東海、新幹線「スーパーひかり」の高速試験で、時速三三五・七キロの国内最高を達成。

共同通信社

▶朝鮮学校、高校野球参加へ（3月2日）神奈川校軟式野球部の加盟申請に、日本高校野球連盟が認可。韓国学校、アメリカンスクールなどの門戸開放も決めた。写真は、出場を喜ぶ神奈川校の生徒たち。

毎日新聞社

澤村誠志／兵庫県立総合リハビリテーションセンター提供

▲ドクちゃん（10）、Vサイン（3月7日）分離手術に成功した結合体双生児の一人が、ホー・チミン市の病院で、澤村誠志医師製作の義足を使い歩行訓練。自力で10メートル歩くことができた。

▶米国がコメのＰＲ（3月16日）千葉・幕張メッセの国際食品・飲料展最終日に出品。日本コメ市場の早期開放がねらいだった。

共同通信社

◀M.C.ハマー躍動（3月26日）前月に米国グラミー賞最優秀賞を受けたラップの王様（28）が来日。超満員の東京ドームで、20人を超すダンサーとともに歌い、踊りまくった。

読売新聞社

▲磯村候補、都知事選でパフォーマンス（3月11日）自・公・民推薦の元「NHKの顔」磯村尚徳（61）が「キザ」脱却のため、銭湯に入った。しかし、結果は現職・鈴木俊一（80）の圧勝だった。

読売新聞社

▶鋼鉄の橋桁落下（3月14日）広島市で「新交通システム」の高架式軌道を架設中、10メートル下の県道に落下。14人が死亡、9人が重軽傷を負った。

平成3年3月

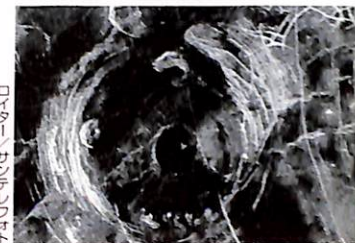
1（金）●東京地検、仕手集団「光進」の小谷光浩代表を蛇の目ミシンから二九六億円恐喝容疑で逮捕。
2（土）●高野連、神奈川朝鮮中高級学校の加盟認可。
3（日）●総理府調査で延命医療拒否が四六％と判明。
4（月）●大阪地裁、参院選の京極派選挙違反事件で一二一人全員に無罪判決。大量無罪の新記録。
5（火）●労働省、強制連行の朝鮮人は約九万人と発表。
6（水）●イトーヨーカ堂グループが「セブン・イレブン」の本家、米・サウスランド社を買収。
7（木）●福岡市に女性助役・加藤笑子が誕生。
8（金）●米国の特許取得企業ランキングで、日立が一位、四位まで日本企業が独占。
9（土）●日ソ女性スキー隊、ベーリング海横断に成功。
10（日）●総工費一五七〇億円の新東京都庁が一般公開。約六万人が最高四時間待ちで入れたのは半分。
11（月）●建設省土木研、世界最大の風洞実験施設完成。
12（火）●東京電力、世界初のLNG一貫発電所完成。
13（水）●小中学校の成績を絶対評価中心と文部省決定。
14（木）●広島市で工事中の橋桁が落下し一四人死亡。
15（金）●大相撲六日目、幕内初の外国人力士同士の取り組み、小錦対曙は押し出しで曙の勝ち。
16（土）●最高裁、戦時中の横浜事件の再審請求棄却。
17（日）●ソ連・サハリン州で住民投票実施、日本への領土返還に反対七割、賛成二割。
18（月）●東証平均株価、七ヵ月ぶり二万七〇〇〇円に。
19（火）●都心と成田空港結ぶ成田エクスプレスが開通。
20（水）●宇宙科学研、月探査機「ルナA」の開発を決定。
21（木）●中国、北方領土で日本支持を転換、中立と発表。
22（金）●文部省、日本国籍に限定した公立学校教員の国籍条項の廃止を決定。
23（土）●総理府の世論調査で七割が外国人労働者容認。
24（日）●ナチスが略奪したセザンヌ・ゴヤなどの絵画をソ連のエルミタージュ美術館が収蔵と判明。
25（月）●インド政府、人口八億四三九三万人で、過去一〇年間で一億六〇〇〇万人増加と発表。
26（火）●日航機墜落事故（昭和60年）で、五四遺族とボーイング社が和解。未成立は一〇遺族。
27（水）●東京地裁、鹿川裕史君「いじめ」事件（昭和61年）で暴行グループに賠償命令。学校の責任不問。
28（木）●子どものいない家庭が初の六割突破と厚生省。
29（金）●西淀川公害訴訟で大阪地裁が企業に賠償命令。
30（土）●写真史の研究目的に日本写真芸術学会設立。
31（日）●ワルシャワ条約機構の軍事機構が正式解体。
●NTT、電報の夜間配達制を廃止。

共同通信社

▲**牛肉自由化スタート(4月1日)**内外価格差が4倍もあるため関税を漸減、2年後の5割値下げが目標。米・豪が攻勢を強める中、国内産地は、規模拡大・ブランド強化に乗り出した。

読売新聞社

◀**信楽で列車が正面衝突(5月14日)**信楽高原鉄道の列車にJRの臨時快速が激突。快速の「世界陶芸祭号」は超満員で、死者42人、重軽傷者415人。単線での信号機故障と、連絡ミスが原因。

ロイター／サンテレフォト

▲**金星に火山があった(5月29日)**NASA(米航空宇宙局)が、金星探査機「マゼラン」による、画像を公表。巨大な火山や、パンケーキ型の溶岩ドームが鮮明に見えた。

PANA通信社

▲**バングラデシュで死者14万人(4月29日)**南東部の海岸地方に、最大規模のサイクロンが上陸。最大の輸出入港・チッタゴンは壊滅、800万人が飢餓に直面した。

▶**「汚れた英雄」マラドーナ(4月26日)**スーパースター(30、右)が、コカイン服用で伊サッカー連盟から出場停止処分中に、また麻薬所持で逮捕された。

◀**豪華客船「飛鳥」が進水(4月6日)**日本郵船が約140億円で、三菱重工長崎造船所に発注。定員584人、映画館やプールを備え、船旅ブームをねらった。

読売新聞社

平成3年4月

1(月)●牛肉、オレンジの輸入自由化を実施。
2(火)●ソ連、食品や日用品を平均六〇㌫値上げ。
3(水)●国連安保理、湾岸戦争の恒久的停戦決議採択。
4(木)●インダス川冒険旅行中の早大生三人が前月強盗団に誘拐と判明(30日までに解放される)。
5(金)●米、シャトル打ち上げ。五年半ぶり船外作業も。
6(土)●中山外相と李鵬首相、一九八九年の天安門事件以来の日中関係回復を確認。
7(日)●統一地方選で自民党圧勝、社会党は地滑り的敗北。都知事選で鈴木俊一が四選。
8(月)●初の単位制高校、都立新宿山吹高校が入学式。
9(火)●政府、アイヌ民族を少数民族と初めて明言。
10(水)●成田税関支署、上智大生が持ちこんだ麻薬のクラック三・九㌘を初摘発。
11(木)●社会党、全千島返還から北方四島返還に転換。
12(金)●全国の中・高校の七割が校則見直しと新聞に。
13(土)●東京六大学野球で、七〇連敗中の東大が立大を破り、二〇〇勝を達成。
14(日)●大阪朝鮮高級学校、ラグビー大会に初出場。
15(月)●ソ連、東欧経済支援で欧州復興開発銀行設立。
16(火)●ゴルバチョフ大統領が初来日。宮中晩餐会で抑留遺族に同情と挨拶(19日韓国に向かう)。
17(水)●刑法の罰金額が一九年ぶり改定される。最高二・五倍に引き上げ(5月7日、施行)。
18(木)●日ソ首脳、北方領土問題認めた共同声明発表。
19(金)●人手不足解消のために、女性と高齢者の積極的活用をと『中小企業白書』。
20(土)●韓ソ首脳会談、友好協力条約締結で合意。
21(日)●芦屋市長に北村春江当選。全国初の女性市長。
22(月)●静信リースが史上四位の負債額の二五五〇億円で倒産。ノンバンクでは初。
23(火)●東京高裁、松戸市のOL殺人事件(昭和49年)で、小野悦男被告に逆転無罪判決。
24(水)●閣議、海上自衛隊掃海艇のペルシャ湾派遣を決定(26日出港、10月30日帰国)。
●テレビと電話保有は一世帯平均二台と郵政省。
25(木)●掃海艇派遣反対直訴の現職自衛官ら三人逮捕。
26(金)●自民党、中曽根元首相の復党決定。
27(土)●国際生命尊重連盟、胎児を中絶から守ったと石巻市の菊田昇医師に「世界生命賞」を授与。
28(日)●米投資家・ピケンズ、小糸製作所から撤退表明。
29(月)●バングラデシュで大規模なサイクロン被害。死者一四万人超える。
30(火)●台湾、中国大陸との内戦状態終了を宣言。

証言・あの日この日
小田島雄志(60)

共同通信社

11月24日(日) 〈十一月二十四日。日曜日。晴。目が覚めて、いくつかある昼間の仕事は放棄し、今日は夜芝居を見るまでのんびりすごすぞ、と決意し、ゆっくり新聞を読みはじめた。ゆっくり読んでいくと、思わず「うん、そうだ」とうなずく文章に三編出合った〉(小田島雄志「新聞に望まれる批評精神」)

「私の紙面批評」を担当していた小田島は、この日の朝刊に出ていた中島誠、高橋章子、別役実のコラムに感心する。いずれも「批評精神による情報見直し」がなされていたからだ。そして、あらためて活字メディアとしての新聞を再評価する。というのも実は、この年の湾岸戦争のテレビ報道で、映像があるがままの真実をナマの姿で伝えているという幻想は崩れていたからだ。湾岸戦争の報道では、ヤラセや情報操作が横行した。(山崎行太郎)

読売新聞社

▲**白鳳期の彩色壁画が出土(5月15日)**鳥取県の上淀廃寺跡から約400点も。7世紀後半~8世紀初頭の日本最古級のもので、古代仏教史上の画期的発見。「釈迦説法図」を構成する神将(写真)などが確認された。

共同通信社

▲**勝新、強制退去(5月12日)**前年、ハワイで麻薬所持容疑で逮捕された俳優・勝新太郎(59)が、帰国。21日、警視庁が逮捕。翌年、東京地裁は、執行猶予4年を言い渡した。

報知新聞社

◀**野茂英雄(22)、日本新(5月9日)**対日本ハム戦で2対5と敗れながら完投、6試合連続2ケタ奪三振を記録。この年、パリーグ最多の17勝、最多奪三振287個を達成した。

報知新聞社

▲**松平定知アナ(46)、酔ってタクシー運転手に乱暴(5月25日)**朝の「モーニングワイド」のチーフをつとめる「NHKの顔」の汚点。出演自粛を発表した。

◀**ラジブ・ガンジー元首相、暗殺(5月21日)**インドのマドラス近郊で、タミル人過激派が爆弾テロ。46歳。元首相の母・インディラも暗殺されている。

ロイター／サンテレフォト

平成3年5月

1(水)●国民年金基金制度実施。自営業者が対象。
2(木)●外国レコードの保護強化など著作権法改正。
3(金)●壮年期死亡の八人に一人は突然死、と新聞に。
4(土)●一五歳未満の子どもは、前年比六八万人減で、戦後最低の二二二五万人と総務庁発表。
5(日)●ワシントンでヒスパニック系住民が人種暴動。
6(月)●陸上自衛隊が翌秋、米国で本格演習と新聞に。
7(火)●創価学会、三年間で約二四億円の修正申告。
8(水)●育児休業法、改正ノンバンク規制法成立。
9(木)●大手企業の大卒初任給が初の一八万円突破。
10(金)●環境庁、日本の絶滅に瀕した野生動物二五〇種の調査結果『レッドデータ・ブック』刊行。
11(土)●証券取引審議会、証券発行市場への銀行子会社参入を認める最終報告案を答申。
12(日)●千代の富士が貴花田に敗北(14日引退表明)。
●ハワイで麻薬所持で逮捕され、強制退去の俳優・勝新太郎が帰国(21日、逮捕)。
13(月)●民間調査で首都圏の一平方㍍一〇〇万円以上の地域が、ピーク時の七割に減少と判明。
14(火)●信楽高原鉄道で列車が正面衝突、四二人死亡。
●東海大病院で、癌患者の安楽死事件発覚。
15(水)●鳥取県上淀廃寺で国内最古級の仏教壁画出土。
16(木)●上野動物園、子どもパンダの性別があべこべで、トントンは雌、ユウユウは雄と訂正。
17(金)●大学審議会、大学、短大の増設抑制を答申。
18(土)●高速増殖炉「もんじゅ」完成。試運転開始。
19(日)●雲仙で再び土石流発生。一三〇〇人が避難。
●東京に子どもの虐待防止センターが発足。
20(月)●北洋のサケ・マス漁船一二〇隻が最後の出漁。
21(火)●大蔵省、日本の対外純資産は三二八〇億㌦で、六年連続世界一と閣議報告。
22(水)●警察庁、DNA鑑定の犯罪捜査導入を決定。
●全逓中央委、「反マル生」闘争の終結を決定。
23(木)●連合、「ど～んと休暇、がっちり時短」集会。
24(金)●経団連総会、米開放うながす決議採択。
25(土)●厚生省調べで成人の五八㌫が癌告知希望。
26(日)●バンコクで離陸直後のオーストリアの旅客機が空中爆発。乗客・乗員二二三人全員死亡。
27(月)●都銀一一行の三月決算は平均三三・四㌫減益、第一勧銀、三菱、富士などは過去最大。
28(火)●成田空港拡張で、運輸相が強制収用放棄宣言。
29(水)●明大入試替え玉事件で職員・学生の三人逮捕。
30(木)●総評センター(旧総評)、自衛隊容認に転換。
31(金)●アンゴラ内戦が一六年ぶりに終結。

読売新聞社

▲**サケ・マス沖取り全面禁止（6月27日）**日・米・ソ・カナダ4ヵ国条約交渉で決着。昭和27年来の歴史が終わった。写真は、解体される根室の漁船。

共同通信社

▶**御殿場で不発弾爆発（6月22日）**飾り物に加工していた運送業者と自衛官が爆死、近所の3人が火傷。不発弾は、近くの東富士演習場から持ち出していた。

▼**ユーゴ、泥沼（6月25日）**6共和国が利害対立。独立宣言したスロベニアとクロアチアに、連邦維持を掲げるセルビアが宣戦。4年におよぶ内戦が始まった。

◀**カズ、2得点（6月9日）**サッカーのキリン杯最終日、対イングランド戦に三浦知良（24、写真）が、果敢なシュート。4対0で日本代表を優勝に導いた。

報知新聞社

▶**東北・上越新幹線、東京駅乗り入れ（6月20日）**本格着工から10年、上野―東京間が開通。東海道新幹線との「東西直結」も達成した。写真は、初の仙台発東京行き新幹線「やまびこ」。

◀**フィリピンのピナツボ火山大噴火（6月15日）**今世紀最大の噴火で、1745メートルの山頂が吹き飛び、直径2キロの窪みができた。写真は、米・クラーク空軍基地上空に上がる噴煙。

ロイター　サンテレフォト

共同通信社

共同通信社

平成3年6月

- 1（土）●法務省、入国を拒否された前年の外国人は三四％増の一万三九三四人で過去最高と発表。
- 2（日）●労働省、障害者雇用進めない企業公表を決定。
- 3（月）●雲仙普賢岳で大規模な火砕流が発生、報道関係者や消防団員ら四三人死亡。以後噴火続く。
- 4（火）●海上自衛隊の六隻の掃海部隊、クウェート沖到着（28日までに機雷一六個処分）。
- 5（水）●中央薬事審議会、丸山ワクチン承認の答申。
- 6（木）●エチオピア人民革命民主戦線、臨時政府樹立。
- 7（金）●早大が数学五輪優勝者の特別選抜制度導入。
- 8（土）●平成元年度の医療費は一九兆円強、と厚生省。
- 9（日）●フィリピンのピナツボ火山が噴火（15日、今世紀最大の噴火。28日までに三二〇人死亡）。
- 10（月）●警視庁、荒木経惟と篠山紀信のヘアヌード写真を摘発せず、警告にとどめる。
- 11（火）●インド・パキスタン両国軍、カシミールで衝突。
- 12（水）●ロシア共和国初の大統領選にエリツィン当選。
- 13（木）●東京で過去三〇年間で最も早く熱帯夜を記録。
- 14（金）●脳死臨調、脳死・臓器移植容認の中間報告。
- 15（土）●IOC総会、一九九八年の冬季五輪開催地を長野市と決定。
- 16（日）●ハンガリーのソ連軍部隊が撤退を完了。
- 17（月）●東京の電話台数が六〇〇万台突破とNTT。
- 18（火）●通貨供給量が四ヵ月連続最低を更新と日銀。
- 19（水）●開発途上国の環境会議、「北京宣言」を採択。
- 20（木）●東北・上越新幹線が東京駅乗り入れ。
  ●野村証券、大口投資家への巨額損失補填発覚。証券不祥事の発端（22日以降、各社に拡大）。
- 21（金）●東京地裁、校則で禁じられたパーマによる退学処分は適法と元女子高生の訴えを棄却。
- 22（土）●バブル崩壊で社長交代が一九八社もと新聞に。
- 23（日）●ル・マン二四時間レースでマツダ車が初優勝。
- 24（月）●北朝鮮、朝鮮戦争時の米兵の遺骨一一体返還。
- 25（火）●クロアチア、スロベニア両共和国、ユーゴスラビアからの独立宣言（ユーゴ連邦崩壊）。
- 26（水）●農水省、「ひとめぼれ」など二九新品種名登録。
- 27（木）●ベルリン東洋美術館で横山大観、鏑木清方らの作品を六〇年ぶりに発見、と新聞に。
  ●自民党本部放火事件（昭和59年）で、東京地裁が警官証言疑問と中核派活動家に無罪判決。
- 28（金）●警察庁、経団連に企業の暴力団排除を要請。
- 29（土）●自民党、政治改革三法案の党議決定を強行。
- 30（日）●文部省、検定結果発表。次年度用小学校の全教科書が「日の丸が国旗、君が代が国歌」と記述。

「現場」を歩く 難波
かつての南海ホークスの本拠地・大阪球場でいよいよ“さよなら”イベント

山本徹美

▲大阪球場は、平成10年11月にまず北側半分が解体・撤去され、2～3年後オープンをめどに11階建てのアミューズメントビルが建設される。　但馬一憲

平成三年四月六日、大阪・浪速区にある大阪球場で「なんば大阪球場住宅博」が開幕した。

球場のグラウンド約一万二〇〇〇平方メートルのほぼ半分を敷地にして、住宅メーカー一八社がモデルハウス二一棟を建設。すなわち、住宅展示場となった。残りは駐車場のほかにイベント用オープンスペースとし、新型ボート、新車の見本市会場に。本邦初「球場内イベント型住宅展示場」の発足である。

大阪球場の開設は昭和二五年。一方、南海ホークス球団は同一三年に設立。それまで本拠地のなかったチームは、優勝して日本一になった同二三年、米国野球協会日本委員長だったマーカット少将（GHQ経済科学局長）を表敬訪問する。フランチャイズ球場がないと知ったマーカット少将は同情を寄せ、「青少年の健全育成を目的とするなら、球場建設用資材を割り当ててもよい」と通達。建設が具体化する。

球場用地を確保した南海電鉄の吉村茂社長は、スタンド下の空間を有効利用するため貸室に、と思いつく。が、「青少年の健全育成」をむねとしているので、テナントは教養関係に限定。料理教室をはじめ、日本舞踊や電気技術などの専門学校と古書店が並ぶ文化会館が併設されたのである。しかし、昭和六三年一一月、南海電鉄は球団をダイエーに売却。球場は、平成三年までコンサート会場などに利用されていた。

未来都市に変身

平成一〇年九月、大阪球場を訪ねてみた。「住宅博」の垂れ幕はかかっているものの、グラウンドに住宅はなく、低公害車フェアを開催中だった。球場の管理と運営をする大阪スタヂアム興業（株）の住本三郎営業課長に事情を訊く。

「球場は、二ヵ月後の一一月に撤去されます。それにともない、住宅展示は今年三月で終了。同四月から『さよなら大阪球場』と題して各種イベントを実施しています」

大阪球場から南、約一四・五ヘクタールの土地は大阪市難波土地区画整理事業の計画により、平成二〇年をめどに大規模な都市整備がなされる。球場跡地周辺には地上三〇階建てのオフィスビルが二棟と、同一一階建てアミューズメントビルが建設され、総事業費は一〇五〇億円。

「コンセプトは、未来都市『なにわ新都』で、二一世紀にふさわしい大阪の文化活動拠点をめざします。球場跡を示すモニュメントの創設も検討中です」（大阪スタヂアム興業・石井光次開発課長）

住宅展示場としては、七年間で一〇万人を突破する動員数をあげた。が、観客のいないスタンドは殺風景で悲哀すら感じる。球団が売却された時点で球場の使命も終わったのだと思う。球場のピッチャーズマウンドに立つと、老朽化した正面スタンドの向こうに、三六階建ての南海サウスタワーホテルがメタリックな輝きを発してそびえていた。

▲住宅展示場に変身した大阪球場。大阪府高野連は、予選のための球場さがしに四苦八苦。

ベストセラー

温かみのある家族像が新鮮『もものかんづめ』大ヒット

マンガ「ちびまる子ちゃん」で爆発的な人気を呼んだ、マンガ家・さくらももこの初のエッセイ集『もものかんづめ』がこの年三月に刊行され、たちまちベストセラーになった。三世代が同居するにぎやかな家族や、若い作者が初めて生活する大都会の様子を、驚きや喜びなどの感情とともに率直に記したもの。

水虫に悩む作者に向かって「オウ、水虫女、大変だなア」とからかう水虫持ちの父親〝臭足のヒロシ〟や、祖父の死に顔を見て、台所の隅で笑い転げ〝死に損ないのゴキブリ〟のようになってしまった姉、大都会で一人暮らしを始めた作者に、防犯の珍アイディアを一日中電話で伝えてくる母親など、どこか間が抜けていて温かみのある家族像は、ひたすら経済的な豊かさを追い求めてきたこの時代には、新鮮で心地よいものだった。

また、終末期の患者に対する従来の医療に大きな疑問を抱いた医師・山崎章郎のエッセイ『病院で死ぬということ』が、この年にはベストセラーの一角に顔を出すようになった。特に癌における終末医療のあり方に、医師の側から異議を唱え、また患者の側にも問題の所在を明らかにした。そして、痛みを和らげる治療法の存在を広く知らしめたり、人は自分の死に方を自分で決める権利があることなどを、具体的な例をあげながら、わかりやすく説いた。

一方、死後の世界に目をやった本もよく売れた。霊能者としてテレビにもよく登場した、宜保愛子の『死後の世界』などである。死後の世界、つまり霊界と現世はつながっているとする著者は、霊界が現世におよぼす影響を記し、現世での生き方を説いた。

●平成3年のベストセラー

順位	書名(著者/出版社)
1位	「Santa Fe」(宮沢りえ・篠山紀信撮影/朝日出版社)
2位	「もものかんづめ」(さくらももこ/集英社)
3位	「血族(上・下)」(シドニィ・シェルダン/アカデミー出版)
4位	「ノストラダムス戦慄の啓示」(大川隆法/幸福の科学出版)
5位	「時間の砂(上・下)」(シドニィ・シェルダン/アカデミー出版)
6位	「だから私は嫌われる」(ビートたけし/新潮社)
7位	「タモリ・ウッチャンナンチャンの世紀末クイズ」(「笑っていいとも!」編/扶桑社)
8位	「water fruit」(樋口可南子・篠山紀信撮影/朝日出版社)
9位	「ホーキングの最新宇宙論」(S・W・ホーキング/NHK出版)
10位	「宜保愛子の幸せを呼ぶ守護霊」(宜保愛子/大陸書房)

全国出版協会出版科学研究所

▲『もものかんづめ』(825円)

▲『病院で死ぬということ』(1262円)

▲『死後の世界』(1165円)

スターと名場面

都会と農村を対比して描く「おもひでぽろぽろ」「息子」

この年最大のヒット作は、高畑勲監督・脚本、宮崎駿製作のアニメ映画「おもひでぽろぽろ」だった。東京のOL・タエ子が山形の農村を訪れ、自然と触れ合いながら暑い夏の日々を送るうちに、都会生活で忘れかけていたものを蘇らせるというストーリー。どのシーンにも、高畑監督ならではの抒情性が漂い、バブル時代に失われたものを、さりげなく問いかける趣があった。

椎名誠の原作を、山田洋次が映画化(監督・脚本)した「息子」も、農村と都会という対照的な舞台を背景にした映画だった。都会で生活する、農村出身の青年が主人公。聴覚に障害を持つ女性との恋と、今も農村に住む父親への反発とが並行して進むストーリー展開で、やがてそれがひとつの流れとなっていく。

この映画の登場人物と同じようなハンディキャップを持つ青年が、恋人に見守られながらサーファーとなって海に挑むラブストーリー、「あの夏、いちばん静かな海。」もこの年のヒット作。北野武監督が、時代の騒がしさと対照的な深い静けさをスクリーンに映し出した。

この年、ほかに次のような作品が公開された。かっこ内はおもな出演者。「髪結いの亭主」(アンナ・ガリエナ)「羊たちの沈黙」(ジョディ・フォスター)

©岡本螢・刀根夕子・TNHG/1991

▲「おもひでぽろぽろ」のタエ子(左)と、少女時代のタエ子(右)。

スタジオ ジブリ提供

▼「息子」のラストシーン近くで、父親(中央・三國連太郎)と息子(右・永瀬正敏)が、息子の恋人(左・和久井映見)と3人で買い物をする。

松竹提供

オフィス北野提供

▲「あの夏、いちばん静かな海。」の主人公(右・真木蔵人)と恋人(左・大島弘子)。

モノ語り'91

〝ずっきりひかえめ〟と〝臨場感〟と「カルピスウォーター」「画王」「スーパーファミコン」

▲カルピスが軽い飲み物になった　大正8年誕生の超ロングセラー「カルピス」は、家庭で楽しむ濃縮飲料だったが、あらかじめ水で薄めたカルピスを缶入りにした「カルピスウォーター」がこの年、カルピス食品工業(現・カルピス)から発売され、大ヒット商品となった。その手軽さと、甘さひかえめのすっきりした飲み心地のよさが、中高生の人気を獲得した。価格は税別で97円。

函館 [1] レース '91年2回1日 8月31日
馬番連勝
[6]-[7] ☆☆☆100円
[6]-[8] ☆☆☆100円
[6]-[9] ☆☆☆100円
[7]-[8] ☆☆☆100円
[7]-[9] ☆☆☆100円
QUINELLA 9840合計☆☆☆50枚☆☆☆500円
JRA 函 館 0200006782 06939 065307

▲馬券の配当金が高くなった　中央競馬会ではこの年から、従来の枠番連勝馬券に加えて、1、2着に入る馬2頭をその馬の番号で当てる「馬番連勝馬券」を売り出した。枠番連勝馬券では組み合わせが最大36とおりなのに対して、馬番連勝馬券は最大153とおりと、当たる確率は低くなったが、その分、配当金は高くなった。写真は、初めて馬番連勝式が採用された函館競馬場初日における、最初の当たり馬券。

JRAフォトサービス提供

▲ぐんと刺激的になったテレビゲーム　ファミコンで一世を風靡した任天堂が、前年11月にバージョンアップ機種「スーパーファミコン」を発売、この年のゲーム機市場を席巻した。ファミコンの機能や補助機器を生かしながら、多様な色、奥行きのある画面、臨場感のある画面変化、ステレオサウンドなどをもりこんだ新しいソフトを楽しむことができた。価格は2万5000円(税込み)。

▲即席麺に新顔登場　この年、即席麺の新タイプ〝生タイプカップ麺〟が人気を呼んだ。湯切りをすれば、すぐに、生のうどんと同じような味が楽しめるというのがポイント。多くのメーカーが開発を競ったが、明星食品から前年発売された「夜食亭」シリーズは、太ゆで麺と関西風のスープ、天ぷらなどのかやくが評判で、この年には大きなシェアを獲得した。発売当初価格は200円だった。

▶テレビ受像機が大きく変わった　前年にカラーテレビ第1号の生産から30周年を迎えた松下電器産業が発売した「画王」が、この年テレビ受像機市場の1割を占める大ヒット商品に。ブラウン管をフラットにしたことと、黒を強調した画像に特徴があった。27、29、33型という大画面にBSチューナーを内蔵、臨場感のあるサウンドも歓迎された。発売時の価格は27型で税別17万7000円。

▲ファックスが家庭に進出し始めた
この年シャープから発売された、家庭用ファクシミリ「UX-1」がヒットした。厚さ39ミリ、重さ2.8キロという、これまでにないコンパクトなデザインで、家庭での省スペースを考慮。そのうえ、電話回線を増設せずに利用できる自動切替え機能がついていた。最大B4サイズまで送受信でき、コピー機能がついている点も人気の要因となり、この年だけで20万台を販売した。価格は税別で7万8000円。

▼自然でない自然に人気集中　この年、タカラから発売された玩具「愛鳥倶楽部」が大ヒットして、話題になった。〝自然のやすらぎ〟をコンセプトに作られた玩具で、揺らしたり触れたりすると、センサーが反応して、本物の野鳥のようにさえずるというもの。これが働きざかりの男性たちに大受け、1個1280円と価格も手頃で、半年間に250万個を売る驚異的な記録を残した。

人物クローズアップ

貴乃花光司（二八）

またも「史上最年少」の記録 大横綱千代の富士に完勝！

◀真っ向から攻めた貴花田は、初挑戦で横綱千代の富士を寄り切る大殊勲の星をあげる。

報知新聞社

平成三年五月一二日の大相撲夏場所初日。この日の中入り後の興味は、結び前の一番に集中した。西前頭筆頭の貴花田（一八＝現・貴乃花）と、西張出横綱千代の富士（三五）の、初顔合わせである。

新入幕からちょうど一年目の貴花田は、まだ一八歳九ヵ月の新鋭。対する千代の富士は、横綱在位五九場所を数え、優勝回数は大鵬に次ぐ三一回、連勝記録も五三という史上二番目の記録を持つ大横綱。相撲の次代を担う若武者と、相撲界の第一人者との対戦は、取組の前から一種異様な期待感にあふれていた。

立ち合い。千代の富士は立ち腰。右を差し、左の前まわしを取った貴花田は、千代の富士の右胸に頭をつける。受けた形の千代の富士は、貴花田に右かいなを返され、左上手が取れない。右の差し手は殺されている。千代の富士の得意は右四つ。仕方なく左足前、右足後ろの逆足になった。守りの体勢というより、明らかに不利な体勢。

最初に仕掛けたのは千代の富士だった。かいなひねり、突き落とし。しかし、貴花田は動じない。このままでは圧倒される、そう読んだ千代の富士は「引き」に出た。これが千代の富士の敗因になった。

この一番について、父であり親方でもある二子山親方（前・藤島親方、現役時代の四股名は貴ノ花）は次のように話す。

「貴花田の力がどのくらい通じるか、そう考えていました。取り口について、私の方から口出しすることはいっさいないのですが、この相撲は、私の考える理想的な一番だったと思います。貴花田の力はもう十分にある。そして、まだまだ大きく伸びると思いましたね」

この二日後、千代の富士は引退を表明した。横綱大鵬が父・貴ノ花に敗れ、引退を表明したのがちょうど二〇年前の五月一四日。父と子は二人の大横綱に土をつけ、奇しくも同じ日に、相撲界の新旧交代をうながすことになったのである。

横綱貴乃花は、昭和四七年八月一二日、東京都中野区生まれ。本名は花田光司。兄は横綱若乃花。伯父は先々代の横綱若乃花（元二子山相撲協会理事長）である。

兄の勝（若乃花）とともにのびのびと育てられた光司は、昭和五四年四月、杉並区立松ノ木小学校に入学。「相撲なんか大嫌い」と言っていた兄とは違い、弟は"わんぱく相撲"に励み、四年生の時にはその横綱になった。

昭和六〇年、明大付属中野中学入学、相撲部に所属した。その光司が、兄とともに父の藤島部屋（当時）に入門したのが、昭和六三年一月二八日のこと。すでに進学も決まり、卒業を目前に控えた時だった。同年三月、貴花田の四股名で春場所に初土俵を踏んだ。以降、貴花田の活躍は、「史上最年少」というスピード出世記録の更新に彩られることになる。以下、それを簡単に列記してみよう。

幕下優勝＝一六歳九ヵ月、十両昇進＝一七歳二ヵ月、幕内昇進＝一七歳八ヵ月、三賞受賞＝一八歳七ヵ月、金星獲得＝一八歳九ヵ月、小結昇進＝一八歳一〇ヵ月、関脇昇進＝一九歳、幕内優勝＝一九歳五ヵ月、大関昇進＝二〇歳五ヵ月。

平成五年初場所、大関昇進と同時に貴ノ花に改名。平成六年九州場所にはさらに貴乃花に改名。そしてこの場所も、前場所に続いて全勝優勝し、貴乃花は文句なしで第六五代横綱に推挙された。

恵まれた素質に加え、豊富な稽古量と強い精神力を備えた横綱貴乃花。優勝二〇回（平成一〇年九月現在）は、史上四位の記録である。

◀大鵬の関脇昇進記録二〇歳三ヵ月を、三一年ぶりに破った一九歳の貴花田。

共同通信社

決定的瞬間

ミャンマーの民主化を訴える不屈の闘いに全世界がエール スー・チー、ノーベル賞受賞！

シルクのブラウスに「ファイティング・ピーコック」（戦う孔雀、民主化運動のシンボル）のバッジをつけ、支持者に向かって語りかけるアウン・サン・スー・チー（四六）。彼女は、一九九一年一二月一〇日に「非暴力運動で、ミャンマーの民主化に貢献した」として、ノーベル平和賞を受賞した。しかし、一九八九年七月から受賞にいたるまで、軍事政権によって厳しく監視され、自宅軟禁の状態が続いている。

彼女は、「ビルマ独立の父」、アウン・サン将軍（一九四七年暗殺される）の娘として生まれた。文学に関心を持つ良家の子女として、インドやイギリスで暮らす。一九七二年にはイギリス人、マイケル・アリスと結婚。その時、マイケルに結婚の条件として、「自分と祖国との間に絶対に立ちはだからないこと」という要求を出したそうだ。いつか祖国のために働かなくてはならないことを予感していたのだろう。こうしたスー・チーの運命を変えたのは、一九八八年四月、母の看病のために帰国したことであった。

人口四〇〇〇万人、敬虔な仏教徒が八割を占める「優しい微笑みの国」が、革命前夜の様相をおびるにいたったのは、ビルマ社会主義計画党（一九六二年結党、ネー・ウィン将軍が議長）の二六年間にもおよぶ一党独裁がゆき詰まっていたからだ。世界の経済発展から取り残され、一九八七年一二月には国連から後発発展途上国（最貧国）に認定されるにまでいたる。国民の生活難は、まさに限界点にまで達していた。不満は、学生たちの反政府デモという形で現れ、一九八八年三月一七日の「流血の金曜日」には一般市民も加わり、一万五〇〇〇人の群衆が首都・ラングーン（現・ヤンゴン）の中心部に集まり、公然と「ネー・ウィン政権打倒」を訴えた。

緊迫した事態に直面した彼女は、ネー・ウィン将軍や党幹部に「国民との対話を求める」手紙を精力的に送り続けた。知識人や民主化を求める人々は、「アウン・サン将軍の娘」として絶大なカリスマ性を持つスー・チーのもとに結集し始め、同年八月二六日に行われた彼女の初めての演説会には数十万人もの人々が集まった。一本化しつつある民主化勢力は、さらに暴力にたよらない幅広い民主化運動を組織するため、九月二七日に「国民民主連盟」（NLD）を結成する。

彼女の行動力と国民に与える影響力に危機感を抱いた政府は、「アウン・サン・スー・チーは外国で暮らしていてミャンマーのことを知らない」「NLDには共産党員がいる」などと中傷。しかし、大多数の国民は、「民主化を象徴する」彼女の言葉に耳を傾けた。ジャーナリスト・三上義一氏は、この当時の彼女と面会した時の印象を「スマートで美人だが、話をしてみると、はっきりとものを言う強い女性だった」と語る。

いらだつ政府は、一九八九年七月一九日に、国家破壊分子法違反容疑で彼女を自宅軟禁する。さらにNLDの党幹部など数百人が逮捕され、反政府勢力は壊滅的打撃を受けた。

ところが、翌一九九〇年五月二七日の総選挙では、なんとNLDが四八五議席中三九二議席を獲得するという大勝利をおさめたのである。予想外の事態に、政府はこの選挙結果を無視。さらにNLDの議員を六〇人以上逮捕して、国際的な批判にさらされる。

一九九五年にいたるまで、彼女の自宅軟禁は解かれなかった。政治信条を曲げず、国外への脱出も拒否する彼女の姿勢は、一〇万人の亡命者のみならず残存する民主勢力にとっても唯一の支えとなる。一九九一年、ノーベル平和賞が授与されたことは、彼女の不屈の闘いへの全世界からの支援を明示したものだった。

▼ノーベル平和賞授賞式には、軟禁中のスー・チーに代わって、夫のマイケル・アリスと二人の息子が出席した。

AP WWP

▲1988年8月26日の演説会で、スー・チーは「複数政党制による政府の樹立」と、「自由で公正な選挙を実施すること」の2点を繰り返し訴えている。 Sandro Tucci Black Star PPS

美の出会い

クリストの大プロジェクト カリフォルニアと茨城に三一〇〇本もの傘が開く!

スイスのベルン市立美術館の建物を、布で丸ごと包みこんで人々のど肝を抜いたのを皮切りに、「積み上げる」「包む」「張る」といった手法で、現代美術に衝撃を与えてきたブルガリア生まれのアメリカ人芸術家・クリスト・ヤヴァシェフ)と、その妻のジャンヌ＝クロード（仏領カサブランカ生まれ）が、日本とアメリカを結ぶ大プロジェクトを実現した。「アンブレラ、日本―アメリカ合衆国、一九八四―一九九一」である。

平成三年一〇月九日、日本では茨城県常陸太田市、日立市、久慈郡里美村にまたがる大地に一九キロにわたって一三四〇本の青い傘が開き、アメリカでは南部カリフォルニアで二九キロの間に一七六〇本の黄色い傘が開いた。以後、約三週間にわたる会期中に、観客数は茨城県では五〇万人を超え、カリフォルニアでは二五〇万人に達した。

準備段階からこの計画を見てきた里美村役場企画課の塙啓一氏は、「傘が立った時、村の人たちは、ただもうびっくりしました」と言う。

「初めは場違いな感じがしましたが、日がたつと目になじんできて面白かったですね。ただ、村の道路が一本だけで、駐車場もありませんから、交通整理が大変でした。でも里美村が選ばれたことは、村の人の誇りにもなり、村のイメージアップにも役立ったと思います」

クリストたちにこの構想が生まれ、最初のドローイングが描かれたのは、昭和五九年のことである。それ以前にもたびたび日本を訪れていたクリストらは、日本と西洋との、二つの場所に関係したプロジェクトを実現したいという構想をあたためていた。昭和六〇年には、まず九州地方をめぐり、翌六一年には四国地方や茨城県から関西地域を丹後半島まで三五〇〇キロ、三度目は山梨県や奈良県、さらに常磐自動車道を走り三〇〇〇キロの旅を終え、最終的に茨城県の山村に候補地をしぼった。

「開発が進んでいなくて、工場などがなく、農村の人々が積極的に土地利用をしていて、日常生活にエネルギーが感じられる普通の場所」というのが、この地を選んだいちばんの理由である。

昭和六二年、クリストとジャンヌ＝クロードはスタッフとともに、茨城県知事・竹内藤男を訪れたのを皮切りに、その後三年をついやし、地権者の農家を一軒一軒訪ね、さらに説明会を何度も開き、プロジェクトへの了承を得ている。

傘一本のサイズは高さ六メートル、直径八・六九メートル、重さ二〇三・二キログラム。台座となる鉄製フレームは、ネジ状のアンカーで地面に固定され、合成樹脂製のカバーが取り付けられて、そこに人が腰掛けられるようにした。傘は風洞実験や大型送風機を使った実験を繰り返し、開いた状態で秒速二七メートル、閉じた状態で秒速五〇メートルの風に耐えられることを確認して出品した。

このプロジェクトのスタッフの一人である柳正彦氏が、「なぜ傘を使うことにしたのですか」と問いかけると、クリストは次のように答えた。

「この芸術作品の最も重要な一側面は空間の使い方の違いを際立たせることにあります。日本では土地の使われ方に一種の幾何学が存在しているのに対し、カリフォルニアには有機的に扱われた巨大で開放的な空間があります。このような状況を反映させるのに傘を使うのです。傘には前も後ろも、右も左もありませんから、私の望むどのような配置も可能なわけです。また傘が内部空間を持っている点も気に入っています。傘は『壁のない家』であり、その下に入った訪問者は守られ、頭上の布に抱き込まれたような気持ちになるでしょう」（『クリスト　ジ・アンブレラズ』佐谷画廊）

途方もないエネルギーを要するこのプロジェクトは、日本では会期中に台風による強風に遭い、一度だけ傘を閉じなければならなかった。一方、アメリカでは突風で数本の傘が飛ばされ、若い女性が死亡、数人の負傷者を出した。当日、日本にいたクリストとジャンヌ＝クロードは、即座にプロジェクトを中止した。

クリストたちのプロジェクトは、すべてスポンサーをつけずに実施され、宣伝目的の支援を受けないことにしている。クリストは、「作品を完全に自分で支配しなければならない」と考えているからだ。この〝アンブレラ・プロジェクト〟の費用としては、ドローイング、リトグラフ、模型などの販売で、二六〇〇万ドルの資金を捻出していた。

▲茨城県常陸太田市、日立市、久慈郡里美村を走る国道349号線にそって、「日本の農村の深い緑に合う」青い傘1340本が整然と並ぶ。クリストの演出による地形を利用したスペクタクルには、「バレー・カーテン」「走る柵」などがある。

Wolfgang Volz（3点とも）

▲カリフォルニアでは、「乾いた風景を補足する」黄色い傘1760本が並んだ。会期中、クリスト夫妻は何度も日米間を往復し、その違いを楽しんだという。

▲地権者の農家の人々を訪ねて、「アンブレラ・プロジェクト」の説明をしてまわるクリストと妻のジャンヌ＝クロード。

20世紀博物館

小樽ヴェネツィア美術館

「水の都」が生んだガラス製品の繊細な輝きに真の〝豊かさ〟を実感する

北海道・小樽市

桑原茂夫

小樽ヴェネツィア美術館提供（4点とも）

ここは、かつて東西文化が交流する国として栄えたベネチアの、その豊かな文化を、インテリアとガラス製品を中心に紹介するミュージアムである。小樽の港町としての歴史の中から生まれ育った、地元のガラス会社「北一硝子（きたいちガラス）」が中心になって企画し、財団法人として運営している。小樽を訪れた人に、いわば究極のガラス製品を見せて、ガラス製品に対する認識を深めてもらおうという意図もあったようである。

それにしても、展示されたインテリアやガラス製品はゴージャスである。しかも伝統の深みを感じさせるものばかりだから、たとえば、日本のバブル経済のもとでの〝贅沢（ぜいたく）〟が、ただカネにあかせてブランド品を買いあさる徒花（あだばな）でしかなかったことを、あらためて指弾（しだん）するかのような雰囲気がある。かつてニシン漁と、北海道―本州を結ぶ流通拠点として栄えた〝商都〟小樽に、ふさわしい施設でもある。

ミュージアムの中身は徹底している。一一世紀から一八世紀にかけて成熟していったベネチア文化が、館内を埋めつくしている。一〇に分かれた展示室のひとつひとつに、現存するパラッツォ（宮殿）の名がつけられているといったことだけでなく、とにかく館内にあるモノのいっさいがっさいがベネチア製という凝（こ）りようなのだ。

長さ一一メートルものゴンドラまでおいてある。観光客を乗せて水の都・ベネチアをガイドする、あのゴンドラの実物である。しかも、ダイアナ妃が乗ったといういわくつきだ。

そのゴンドラを囲むようにして配置された展示室は、一八世紀におけるベネチア貴族の館の典型的な居間だったり、豪華な縁取りに飾られた鏡をコレクションした部屋だったり、ベネチアン・グラスのいくつかの技法を歴史的に追うことのできる部屋だったりと、バラエティに富んでいる。

しかもどの部屋に入っても、ベネチアの古きよき文化に直接触れることになるので、次第に〝その気〟になっていく人も少なくないようだ。蠟燭（ろうそく）の揺らめく炎が、シャンデリアを幻想的に浮かび上がらせる、貴族の館の居間に身をおいている自分の姿を、映画の一シーンを見るように想像してみたりするわけだ。

そういえば館内には、貴族の衣裳を身にまとって記念撮影できるコーナーがあり、けっこう人気を呼んでいる。何者かに姿を変えてみることを、人はいつもどこかで望んでいるに違いない。喜々として衣裳を選んだり、カメラに向かってポーズを取ったりしている。館内全体に、中世の栄華を偲（しの）ばせる貴族趣味が横溢（おういつ）しているから、それも自然なことのように思えるのである。

〝豊かさ〟をめぐる、モノと人との関係をいろいろと考えさせるミュージアムでもあった。

▶一八世紀末、ナポレオンに占領され崩壊したベネチア共和国だが、ベネチアン・グラスは一八三〇年代に復活し、かつての技法を駆使して、写真のような飾り足を持った透明ガラス杯などが製作された。

▶一八世紀における貴族の館の居間を模した展示室。ダイニングとリビングのセットは、当時作られていたさまざまな様式のものを並べてある。シャンデリアには蠟燭が灯されていた。

▲ベネチアの伝統を受け継ぐ、現代作家の作品も展示している。これはベネチアン・グラスの本場であるムラーノ島で生まれた天才的なガラス作家、ルチオ・ブバッコの作品。小樽とベネチアの文化的交流は、今さかんに行われている。

●小樽ヴェネツィア美術館
北海道小樽市境町五―二七
☎〇一三四―三三―一七一七
JR南小樽駅から徒歩一〇分
開館時間＝九時～一八時
休館日＝元日
入館料＝一般七〇〇円

▲18世紀に建設された、ベネチアのパラッツォ・グラッシイをモデルにした、小樽ヴェネツィア美術館の外観。

〝バブルの膿〟は「イトマン事件」ではじけた 住銀、野村、興銀はじめ一流銀行・証券会社が軒並み

続発！ 金融犯罪と「闇の紳士」

共同通信社

▲証人喚問で田淵節也野村証券前会長は「大蔵省の通達違反覚悟で損失補塡」と証言。

共同通信社

▲9月4日、参院証券金融問題特別委に証人喚問された岩崎琢弥日興証券前社長。

毎日新聞社

◀8月30日、黒沢洋日本興業銀行頭取は、衆院特別委で尾上容疑者への融資は「チェックが誠に甘かった」と釈明。

イトマン事件、銀行の不正融資事件、証券会社の損失補塡事件と株価操作疑惑など――平成三年は日本列島のあちこちから金融犯罪が噴出した年であった。あたかもバブル経済という腫瘍が破裂して、一気に膿が噴き出したかのように。しかも、かつては地下で暗躍していた「闇の紳士」たちまでが表舞台に躍り出し、〝表経済〟とリンクしながら相互にもたれ合うという構図も明らかになった。

河村イトマン社長が暴走 三〇〇〇億円が裏社会へ

「イトマン疑惑　強制捜査へ　『絵画』で数十か所　大阪地検きょうにも　元幹部ら特別背任容疑」（「読売新聞」平成三年四月二四日）

▲〝女錬金術師〟尾上縫。経営する料亭「恵川」は倒産、負債総額は推定4100億円。

▲イトマン本社ビル。河村前社長は、逮捕時「なぜこんな仕打ちを受けないといけないのか」と語る。

平成三年四月二三日、前々年三月期には一一〇億円の経常利益を出した大阪の中堅商社・イトマンが、元常務・伊藤寿永光（四六）と実業家・許永中（四四）を、特別背任で告訴することを決めた。伊藤や許といった、いわば裏社会の魑魅魍魎と手を組んで暴走する河村良彦（六六）社長を解任してから三ヵ月がすぎようとしていた。告訴状が受理されたのは、その日の深夜近くのことである。

それから数時間後、大阪地検特捜部と大阪府警捜査二課は強制捜査に着手する。二四日午前八時すぎ、係官は許が事実上のオーナーである関西新聞社に到着した。また、午前八時二〇分には、兵庫県西宮市の高級住宅街にある河村前イトマン社長宅にも捜索の係官が入った。

イトマンは日本のトップバンクである住友銀行の〝別動隊〟と言われ、バブル経済に乗じて不動産投融資や絵画取引などに狂奔してきた。しかも一部上場企業でありながら、銀座の一等地を地上げしたことから「地上げのプロ」と呼ばれ、「企業舎弟」としてアングラ社会を泳ぎまわる伊藤寿永光を役員にするなど、そのビジネス感覚は常軌を逸していた。株の買い占めや会社乗っ取りなどでとかくの噂がある許永中との絵画取引も、常識では考えられないものである。

しかし、住友銀行出身の河村良彦前社長には、なりふりかまわず突っ走らなくてはならない理由があった。すでに河村自身が〝地下金脈〟にどっぷり浸かっていたからである。イトマンの乱脈ぶりに動転した住友銀行サイドの制止にもかかわらず、河村は暴走し続ける。

事件を追い続けたジャーナリストの伊藤博敏氏は、「利益追求のためなら何でもする住友銀行の汚れ役を河村が引き受け、イトマン社員では扱えない土地・絵画・ゴルフ場のバブル三点セットを伊藤や許にまかせた。その結果、巨額のコゲつきが出て、河村、伊藤、許の犯罪となった」と事件の核心を指摘する。

イトマンから裏社会に流れ出た金の総額は、約三〇〇〇億円と言われる。たとえば、絵画取引ではイトマンから五二八億円が支払われたが、大阪地検は実際の価格を一八一億円とはじき出した。つまり、イトマンは差額である三四七億円をしゃぶり取られたことになる。同様のことが不動産投融資やトンネル融資でも行われ、株の買い占めや地上げ資金となって裏社会に呑みこまれていった。

七月二三日、イトマン前社長の河村と前副社長の高柿貞武（五九）は商法（自社株取得禁止規則）違反で、伊藤、許は特別背任で逮捕されたが、これは金融犯罪発覚のほんの序章にすぎなかった。

証券会社の損失補塡続出　十指にあまる銀行の犯罪

イトマンが金融犯罪の第一幕の舞台だとすれば、第二幕は「世界のノムラ」が舞台となった。開幕のベルは、六月二〇日の「読売新聞」トップ記事が鳴らした。

「野村証券　法人損失一六〇億円穴埋め／債券高値買い戻し／昨年の暴落時　証取法違反の疑い」

いわゆる〝証券スキャンダル〟の発覚である。野村証券と言えば世界一の証券会社であり、大蔵省でさえうかつに手出しできないガリバー企業。その野村が年金福祉事業団、昭和シェル石油、日立製作所などの大口取引先に対して、自社保有のワラント債（新株引受権付社債）や債券を安値で売り、高値で買い戻すという形で損失補塡をしていたのである。また、大手の日興、大和、山一と準大手・中堅の証券会社一三社も損失補塡していたことが七月末までに判明する。補塡額は総額一七二〇億円にものぼった。

しかも、野村、日興の二社は関連のノンバンクを使って、広域暴力団・稲川会の石井進前会長（六七）に約三八〇億円を融資していたのである。石井はこれを東急電鉄株買い占めの資金にあてており、野村、日興の両社は石井の東急株買い占めを実質丸抱えで支えていたことになる。しかも東急株の買い占めは野村主導で行

▲7月25日、富士銀行の不正融資が発覚。記者会見で頭を下げる山本副頭取（左から二人目）ら幹部。

▲大手証券4社は7月29日、準大手・中堅13社は31日、608法人、9個人にのぼる損失補塡先リストを公表。

われており、「暴力団とのタッグマッチによる株価操作」と指弾された。

さらに舞台はまわって、今度は銀行がスポットライトをあびることになる。主役は尾上縫（六一）という「女相場師」。大阪で料亭を経営する尾上は、日本興業銀行のワリコーや同社株を大量に購入し、それを担保に融資を引き出して株に巨額の投資を続けた。一時は興銀の黒沢洋頭取（現・会長）が挨拶を兼ねて四回も会食したほどの「優良」顧客で、絶頂期には有望銘柄を教える彼女の〝お告げ〟にカネの亡者が群がった。ところが、バブル崩壊で資金繰りに窮した尾上は、東洋信用金庫の元支店長と組んで七四二五億円の架空預金証書を偽造。それを興銀や富士銀行、ノンバンクなどに持ちこみ、約三四〇〇億円を詐取したとして八月一三日に逮捕されたのである。

このほか、富士銀行赤坂支店の架空預金証書二六〇〇億円発行事件なども発覚し、この夏の銀行犯罪は十指にあまった。儲けんがために甘い審査で融資する銀行、それをチャンスとして暗躍する株の仕手筋や暴力団――まさに汚れきったバブル経済の縮図と言えよう。

中央大学商学部の奥村宏教授は、「アングラマネー（地下経済）であろうと、カネはカネ。収益をあげるためには利用しない手はないとばかりに金融機関や商社が群がったものの、逆に食いものにされたという構図が見えてくる。しかも大蔵省は銀行、証券会社の不祥事が発覚するまで、見て見ぬふりをしてきた」と、一連の金融不祥事を分析する。そして、そのツケは、その後の金融破綻となって今現在、国民にまわされている。

7〜8月

フォト＋日録で再現する365日

▼『悪魔の詩』の翻訳者殺害(7月12日)五十嵐筑波大助教授(44)が、構内で刺殺された。犯人は不明。著者は、故・ホメイニ師から死刑宣告を受けていた。写真は訳者の遺影。

読売新聞社

▲茨城CC、会員権乱発(8月9日)定員の20倍、約5万人に1000億円で販売し告訴されたが、所有主・常陸観光開発は9月に倒産。写真は、工事中断のゴルフ場。

共同通信社

▲日本初の脳死肝移植(7月12日)東京女子医大が、肝硬変で生体肝移植手術を受けた59歳の女性に実施。女性は翌日死亡、脳死論議が決着していなかった。

◀「トリカブト事件」(7月1日)5年前の女性の死を、毒殺と断定した警視庁は、夫を保険金殺人容疑で逮捕。夫は冤罪を主張し、控訴中。写真は葬儀の様子。

共同通信社

▶小錦(27)が婚約発表(7月23日)名古屋のホテルで5年越しの交際相手のモデル・塩田寿美歌さん(26)を紹介。大関の小錦は前場所12勝3敗と絶好調、横綱の声がかかっていた。

▼「風の子学園」生が懲罰で死亡(7月29日)広島県三原市の登校拒否児らの民間施設が、喫煙した少年(14)と少女(16)を、44時間もコンテナ(写真)に監禁。園長は逮捕された。

「FRIDAY」小檜山毅彦　読売新聞社

平成3年7月

1(月)●東京二三区で粗大ゴミ収集が全面有料に。

2(火)●厚生省、妊娠検査薬を一般用医薬品で認可。

3(水)●郵政省、ミニFM局の年内認可を決定。

4(木)●行革審、権限の地方移管などを答申。

5(金)●国税局、証券大手四社に九〇億円の追徴課税。

6(土)●政府、製造物責任制導入の検討を開始。

7(日)●米誌の富豪番付で森ビル社長が世界一(10日、米専門紙の銀行番付で邦銀が六位まで独占)。

8(月)●北朝鮮、国連加盟申請(8月5日、韓国も加盟申請。8日、国連安保理が同時加盟勧告)。

9(火)●政府、湾岸戦争追加支援九〇億ドルの円高目減り分、約5億ドルの拠出を決定。

10(水)●天皇、皇后が普賢岳噴火の被災民をお見舞い。

11(木)●ハワイ、メキシコから南米にかけ今世紀最大規模の皆既日食。日本からの観測者多数。

12(金)●ペルーで反政府ゲリラが日本人三人を射殺。

●小説『悪魔の詩』日本語訳者の五十嵐一筑波大助教授が大学構内で刺殺される。

●東京女子医大で女性患者に日本初の脳死肝移植手術(13日、患者死亡)。

13(土)●一一の県でリゾート開発見直し、と新聞に。

14(日)●米ソ外相会談、戦略兵器削減で合意。

15(月)●成田空港で眼球・角膜の輸入急増、と新聞に。

16(火)●島桂次NHK会長が国会での虚偽答弁で辞任。

17(水)●中国、プノンペン政府を事実上承認。

18(木)●奥鬼怒スーパー林道、着工二〇年で全面開通。

19(金)●トヨタ、ドア内蔵エアバッグ開発と発表。

20(土)●石原裕次郎記念館、小樽市にオープン。

21(日)●競馬の武豊が五〇〇勝、史上最年少・最短。

22(月)●大学入学資格検定(大検)の志願者が過去最多の一万九二八五人、七割が高校中退者。

23(火)●大阪地検、イトマン事件で河村良彦前社長、許永中CTCグループ会長ら六人を逮捕。

24(水)●ペルーのリマで反政府ゲリラの爆弾テロ。

25(木)●富士銀行で総額二六〇〇億円の不正融資が発覚(27日、東海銀行も六二〇億円の不正融資)。

26(金)●大阪で朝の最低気温三〇・二度の新記録。

27(土)●北朝鮮が初の経済特区建設計画、と新聞に。

28(日)●世界柔道の無差別級で小川直也が三連覇。

29(月)●広島県三原市の施設で、園生二人がコンテナに監禁され熱射病で死亡(30日、園長を逮捕)。

30(火)●米ソ首脳会談、米国が対ソ最恵国待遇を付与。

31(水)●東京株式市場で出来高が三億株を割り、二一年前の三割の水準(8月9日、二億株割れ)。

共同通信社

証言・あの日この日

天野祐吉(58)

11月30日(土)　〈ことしの三大ヒット商品、①カルピスウォーター②『ウォーリーをさがせ！』③宮沢りえ・篠山紀信『サンタフェ』に共通するものは何か。実はこれ、数日前にテレビ東京の番組のなかで、小池ユリ子さんにとつぜん出されたモンダイなのだが、なんというコジツケの天才であろうか、とっさにぼくは正解を思いついてしまったのだ〉(天野祐吉「CM天気図」)

広告という視点から鋭い社会分析を試みていた「広告批評」編集長・天野祐吉は、この頃コラムニストとしても活躍、余勢をかってテレビにもしばしば登場。ニュースキャスター・小池ユリ子が出した問題の正解は〈次元の違う二つのものの組み合わせ〉だった。カルピスとウォーター、絵本とゲーム、宮沢りえと篠山紀信。いずれも予想外の組み合わせにその秘密があった。(山崎行太郎)

共同通信社

▲ルイス(30)、9秒86(8月25日)東京・国立競技場の世界陸上選手権100メートル走で、このところ圧倒されていた新鋭・バレルを、後半5メートルで抜き去り、世界新記録。王座を奪回した。

ロイター・サンテレフォト

▲アルバニアから大量の難民(8月7日)独裁政権と経済危機に絶望した数千人が、貨物船でイタリア南部のバリ港に殺到。伊政府は強制送還を行ったが、翌年まで後を絶たず、国際問題となった。

▼大阪桐蔭、初出場で優勝(8月21日)夏の甲子園決勝戦で、沖縄水産に16安打の猛攻をあびせ、13対8で勝利。沖縄水産の2年連続準優勝は、史上初。

読売新聞社

▶中国が「万里の長城」のロープウェーをPR(8月)前月に完成。全長833メートル。遠くから眺めるだけだった山海関の角山長城が、身近になった。

読売新聞社

◀「サマージャンボ宝籤」に救急車(8月22日)1等と前後賞合わせて1億円とあって、どこの売り場も長蛇の列。東京・銀座では、早朝から並んだ初老の男性が、暑さで倒れた。

共同通信社

平成3年8月

1(木)●労働省、急増する南米諸国からの日系人出稼ぎ者のため、日系人雇用センターを開設。

2(金)●原油価格は湾岸危機前に復帰。ただしガソリン小売価格は便乗値上げのまま、と新聞に。

3(土)●三月に京大病院で生体肝移植の一歳児が死亡。

4(日)●地中海で日本車運搬船衝突。四五〇〇台海に。

5(月)●本田技研工業創業者・本田宗一郎が死去。

6(火)●平岡広島市長、過去の植民地支配を初めて謝罪(9日、本島長崎市長、外国人被爆者に謝罪)。

7(水)●企業年金に約三兆円の含み損発生、と新聞に。

8(木)●運輸省、東北・九州整備新幹線の建設を指示。

9(金)●相撲協会、立ち合いの「待った」に罰金制決定。

10(土)●中国とベトナムが関係正常化で原則合意。

11(日)●マンゴー、パパイアなどの新熱帯果実が、バナナ、パイナップルに代わり急増中、と新聞に。

12(月)●警察庁、少年の覚醒剤乱用が五割増と発表。

13(火)●大阪地検、東洋信金の総額三四二〇億円不正融資で、料亭経営者・尾上縫らを逮捕。

14(水)●宮城県で凍結卵子の体外受精に成功。国内初。

15(木)●農水省、有機栽培など環境・安全性配慮の環境保全型農業への本格的取り組みを決める。

16(金)●「ヤクザ」に米・ソなど欧米人が加入と新聞に。

17(土)●中国製乗用車三〇台、日本へ向け初輸出。

18(日)●伊政府、アルバニアの脱走兵含む難民一万八〇〇〇人を送還と発表。

19(月)●ソ連の保守派がゴルバチョフ大統領を軟禁しクーデター、モスクワに軍隊出動(21日失敗)。

20(火)●台風一二号の大雨で関東中心に一一人死亡。

21(水)●夏の甲子園大会で、初出場の大阪桐蔭が優勝。

22(木)●骨髄移植の全国組織「ひまわりの会」発足。

23(金)●大蔵省が損失補填を把握しながら黙認と判明。

24(土)●ウクライナ共和国、ソ連からの独立を宣言。

●ゴルバチョフ大統領、共産党書記長辞任、党中央委解散を勧告。ソ連共産党の実質的解体。

25(日)●カール・ルイス、東京・国立競技場の世界陸上選手権一〇〇メートルで、九秒八六の世界新記録。

26(月)●政府、バルト三国の独立支持を決定。

27(火)●越智経企庁長官、大型景気が連続五七ヵ月で、過去最長の「いざなぎ景気」に並ぶと報告。

28(水)●京大、神戸大、翌年度から教養学部廃止を決定。

29(木)●投資用リースマンション大手のマルコー倒産。

30(金)●宇宙科学研、太陽観測衛星打ち上げに成功。

31(土)●函館競馬で全国初の馬番連勝制を実施。

●全日空の「YS11」が最後の就航。

読売新聞社

▲南北朝鮮、国連に加盟（9月17日）分断国家成立以来、約46年。統一気運も、共存主張の韓国に対し北朝鮮は合併をと、両国は平行線のままだった。写真は国連本部にひるがえる両国国旗。

◀きんさんぎんさん「デビュー」（9月13日）敬老の日を前に、鈴木愛知県知事らが、名古屋市に住む数え年100歳の双子姉妹を祝福。これを機に二人はCMなどで「アイドル」となった。

読売新聞社

日刊スポーツ

▲谷口浩美（31）、粘走（9月1日）東京で開催の世界陸上選手権のマラソンで、後半、一気に加速。高温・多湿の過酷なレースを2時間14分57秒で制した。

中国新聞社

◀台風19号、厳島神社つぶす（9月27日）最大瞬間風速58.9メートルの強風と高波が、安芸の宮島のシンボルを強襲。本殿正面から瀬戸内海に張り出し、国宝「平舞台」の西側にある、重文の能舞台の屋根が崩れ落ちた。

▶ザビエル記念聖堂、全焼（9月5日）スペインの宣教師・ザビエルの山口訪問400年を記念して昭和27年に建築、観光名所だった。写真は、炎上する聖堂。平成10年、意匠を一新して再建された。

読売新聞社

読売新聞社

▲北海道教組、「主任手当」返還（9月4日）主任制を学校管理の強化として反対し、受け取りを拒否。18億円になった手当を道教委に現金で持参した。11月に妥結、組合は小切手で受領した。

平成3年9月

1（日）●横浜でアジア初のアムネスティ世界大会開催。
2（月）●米国マンガ「ブロンディ」、六〇年間の専業主婦をやめ就職宣言。職業未定。
3（火）●福岡県宝珠山村の村長選が一三回連続無投票。
4（水）●青森で東北新幹線・盛岡—青森間の起工式（7日九州新幹線、17日北陸新幹線も）。
5（木）●山口市のザビエル記念聖堂、焼失。
6（金）●ゴルフ会員権乱売の常陸観光開発が倒産。
7（土）●防衛庁がPKO調査で自衛官を中東へ派遣。
8（日）●台北で「台湾」名で国連復帰求める二万人デモ。
9（月）●三四ヵ国一六〇〇人の科学者、バイオテクノロジーを軍事目的に利用しない宣言書に署名。
10（火）●一〇〇歳以上の高齢者は三六二五人と厚生省。
11（水）●大阪府教委、大庭寺遺跡から日本最古の須恵器と窯跡二基を発掘と発表。
12（木）●北朝鮮、国際核査察協定の調印を拒否。
13（金）●首都圏の集団コレラで横浜市が安全宣言。
14（土）●台風一七号襲来、西日本で死者不明一一人（19日、台風一八号でも死者不明一八人の被害）。
15（日）●普賢岳で最大規模の火砕流、一七〇棟焼失。
16（月）●ロンドンで「ジャパン・フェスティバル」開幕。
17（火）●建設省、木造三階建て集合住宅建設を初認可。
●国連総会、南北朝鮮の国連加盟決議案を採択。
18（水）●居住面積が変わらない中、家具など耐久消費財が好景気の四年間で四割の急増と経企庁。
19（木）●辰吉丈一郎、バンタム級で初の世界王座に。
20（金）●科学技術庁、若者の理工系離れ続き、二〇〇五年には科学技術者が四八万人不足と発表。
21（土）●肉用和牛の優良種牛「紋次郎」の二セ精液が血統書つきで流通、数十頭が被害と新聞に。
22（日）●韓国人スリ急増で日韓警察の共同作戦開始。
23（月）●融資先の安全度で日本が一位と英誌発表。
24（火）●ソ連、シベリア抑留日本兵のスパイ罪判決を取り消す名誉回復証書一六七人分を交付。
25（水）●最高裁、岩手靖国訴訟の特別抗告を却下。公式参拝、玉串料の公金支出が違憲と確定。
26（木）●天皇・皇后が初の外遊でタイなど三国に出発。
27（金）●老人保健法改正。負担金を六〇〇円に値上げ。
28（土）●台風一九号が列島縦断。一五府県で死者行方不明五〇人。青森県のリンゴが壊滅的被害。
29（日）●日本の対EC貿易黒字、前年比六一・九ポイント増の二〇〇億ドルで過去最高。対独輸出急増による。
30（月）●借地借家法、五〇年ぶり改正。貸し主優遇。
●明治一九年開館の浅草・常盤座が閉館。

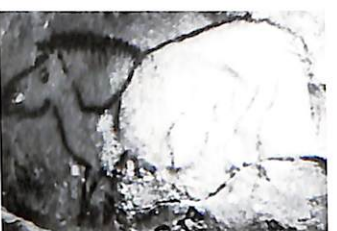
共同通信社

◀国定公園に古タイヤ遺棄（10月22日）アオウミガメの産卵などで有名な徳島・室戸阿南海岸に70万本も。業者は摘発され、ふえ続ける産業廃棄物に、徳島県は、監視強化を打ち出した。

読売新聞社

▲リニアモーターカー炎上（10月3日）宮崎県日向市のJR総研実験センターで走行中、車体下部から出火。「超伝導磁気浮上式」唯一の車両だったため、年内の実験が中断された。

AFP／PANA通信社

◀紀元前1万年の壁画（10月18日）仏南東の保養地・カシスの洞窟で発見。炭とマンガンで動物や生活風景などが描かれ、有名なラスコー壁画を想起させた。

▼クウェートで油井鎮火式（10月6日）湾岸戦争でイラク軍が放火した732本の油井は、米国を中心にようやく鎮火された。写真は、式に参加したクウェート首脳。

AFP／PANA通信社

読売新聞社

◀秋篠宮家に長女が誕生（10月23日）紀子妃（25）が宮内庁病院で出産。3238グラム。天皇・皇后両陛下の初孫になった。29日、「眞子」と命名された。写真は、退院する紀子妃と眞子さん。

読売新聞社

▲武豊のメジロマックイーン、幻の1着（10月27日）天皇賞で1番人気を背負ってスタート。6馬身差で圧勝と思われたが、向こう正面で進路妨害。最下位降着の大波乱となった。写真はゴール直後。

平成3年10月

1（火）●横浜市、放置自転車を廃棄物として処分する条例を全国で初めて施行。
2（水）●大阪大の実験室で爆発事故、学生二人死亡。
3（木）●証券不祥事防止の改正証券取引法、成立。
4（金）●南極条約協議国、資源開発五〇年禁止に合意。
5（土）●葬送の自由をすすめる会、遺灰を海にまく「散骨」葬儀執行（15日法務省、容認見解を発表）。
6（日）●湾岸戦争で発火のクウェートの全油井が鎮火。
7（月）●政府による初のシベリア遺骨収集団が出発。
8（火）●大蔵省、四大証券に営業停止と自粛を命令。
9（水）●クリスト、茨城県下で「アンブレラ・プロジェクト」。巨大な傘一三四〇本を展示。
10（木）●世界初の三大北壁制覇の登山家・長谷川恒男ら二人がカラコルム山系で雪崩のため死亡。
11（金）●ソ連、国家保安委員会（KGB）の解体を決定。
12（土）●法務省調べで登録外国人は最高の一〇七万人。
13（日）●先進七ヵ国蔵相会議、対ソ本格支援を声明。
14（月）●ノーベル平和賞にミャンマーのスー・チー。
15（火）●千葉市の政令都市移行を閣議決定。一二番目。
16（水）●米・テキサス州で三五歳の男が銃を乱射し二二人死亡。米国犯罪史上有数の大量殺人事件。
17（木）●日米金融協議で、米国が金融不祥事は日本市場の不透明性が原因と、金融市場開放を要求。
18（金）●朝鮮総連、朝鮮人強制連行者の名簿一二万六三八四人分を公表。
19（土）●通産省、三四年間実施してきた繊維産業の設備制限カルテルを三年後に全廃と決定。
20（日）●約一八〇〇件の医療訴訟が争われる中、被害者救済など求め「医療過誤原告の会」を結成。
21（月）●ダイオキシンが全国二五地域で濃度・検出率とも過去六年間で最悪と環境庁の調べで判明。
22（火）●皇居・吹上新御所の起工式。
23（水）●秋篠宮紀子さん、女児（眞子内親王）出産。
24（木）●兵庫県三田市、一億円の高級住宅五五戸分譲。
25（金）●廃棄物の再利用うながすリサイクル法施行。
26（土）●長雨による野菜不足で築地市場のレタスが月初めの四倍、ネギも一本一〇〇円、と新聞に。
27（日）●ポーランドで戦後初の完全自由選挙を実施。
28（月）●この年春の大卒女子就職率は八一・八ポイントで男子を上回り、史上最高と文部省。
29（火）●財政赤字二六八七億ドルで史上最悪と米財務省。
30（水）●日航のアンカレジ経由欧州線の最終便出航。
●イスラエルが初出席の中東和平会議開幕。
31（木）●防衛大、女子一三人が初めて入学許可。

11~12月

▲土俵上に酔っ払い（11月21日）九州場所12日目、寺尾・琴ケ梅戦で前代未聞の珍事。40歳前後の客が土俵中央に乱入。寺尾（写真右）に水をつけていた旭道山が、とっさに抱えて土俵下に降ろした。

読売新聞社

▲25年目の対話（11月21日）成田空港問題の第1回公開シンポ開催。石毛反対同盟事務局長（右）と奥田運輸相（左）らが出席。奥田が陳謝、解決へ動き出した。

共同通信社

▲上原謙、死去（11月23日）映画「愛染かつら」で人気沸騰。典型的な二枚目スターだった。82歳。この年、40歳近くも年下の妻との離婚トラブルが話題に。写真右は長男・加山雄三。

共同通信社

▼日蓮正宗、創価学会を破門（11月28日）池田大作名誉会長らが、阿部日顕上人（写真）を執拗に批判したとして強硬措置。両者は完全な絶縁状態となった。

共同通信社

共同通信社

▲弥生時代の大規模な灌漑施設発見（11月）大阪の八尾市近辺の池島・福万寺遺跡を発掘中、ヤナギやカシを使った導水管を出土。直径1メートル、長さ4メートルもの大きさだった。

▶「エイズの恐怖」告発（11月21日）血液製剤で感染した血友病患者と家族が、東京で「AIDSを告発する集会」を開催。強い偏見や差別のため、カーテン越しに患者の実態などを訴えた。

読売新聞社

平成3年11月

1（金）●オートマチック車限定の運転免許制実施。
●那覇市、公文書の年号に元号・西暦併用を実施。
2（土）●環境庁、高知県で二ホンカワウソの調査開始。
3（日）●全日本女子体操で内紛。四八選手らが棄権。
4（月）●トヨタ、中国・瀋陽で初の商用車の生産開始。
5（火）●東京の城南信金、個人客の金利上乗せ制導入。
6（水）●ロシア大統領・エリツィン、共産党に解散命令。
7（木）●米国のプロバスケット選手のM・ジョンソンがHIV感染を公表し引退。
8（金）●韓国の盧泰愚大統領、朝鮮半島非核化を宣言。
9（土）●弱視児童用教科書が公費負担に、と新聞に。
10（日）●世界オセロ大会で東大生の金田繁が優勝。
11（月）●高知県知事選に元NHK記者の橋本大二郎が飛び入り出馬（12月1日、当選）。
12（火）●BC級戦犯の韓国人元軍属や遺族ら、一億三六〇〇万円の国家補償求め東京地裁に提訴。
●インドネシアの東ティモールで国軍兵士が独立派青年の葬列に発砲。一一五人が死亡。
13（水）●宮沢りえ写真集『Santa Fe』発売。一カ月で年間ベストセラー一位に。
14（木）●カンボジアのシアヌーク殿下、中国から帰国。
15（金）●豊中市で障害持つ中学三年女子が「いじめ」で重体（21日死亡、22日同学年の生徒四人逮捕）。
16（土）●岩手県企業局、職員専用ゴルフ場造成が発覚。
17（日）●不法就労外国人の職種は、男で建設作業・工員が八割、女でホステスが五割と法務省。
18（月）●東京株式市場の株価全面安、二万三四〇〇円。
19（火）●『生活白書』に初の豊かさ指標、一位は山梨県。
20（水）●比政府、日本への出稼ぎを二三歳以上に規制。
21（木）●国と反対派が初めて直接対話する成田空港問題シンポジウム開催。国が強制収用を陳謝。
22（金）●愛知県警、非行組織「三河女番連合」の少女六七人を逮捕、二二八人を補導し壊滅させる。
23（土）●「全国過労死を考える家族の会」結成。
24（日）●社会党、「日の丸」容認の新見解発表。
25（月）●ハイビジョン推進協議会、試験放送を開始。
26（火）●米国、比・クラーク空軍基地を全面返還。
27（水）●自民・公明両党、衆院でPKO協力法案を強行採決（12月10日政府、本会議の採決を断念）。
28（木）●日蓮正宗大石寺、創価学会に破門を通告（12月27日、創価学会、日顕上人の退座を要求）。
29（金）●閣議、神戸空港・びわ湖空港新設などを含む第六次空港整備五ヵ年計画を了承。
30（土）●ボーナス妥結額は七七万四八三五円と日経連。

◀「反省ザル」に芸術祭賞（12月2日）文化庁が演芸の部で、山口県の「周防猿まわしの会」所属・村崎太郎（30）を選考。テレビCMでもなじみの猿の次郎を使った、大道芸の復活と創意が評価された。

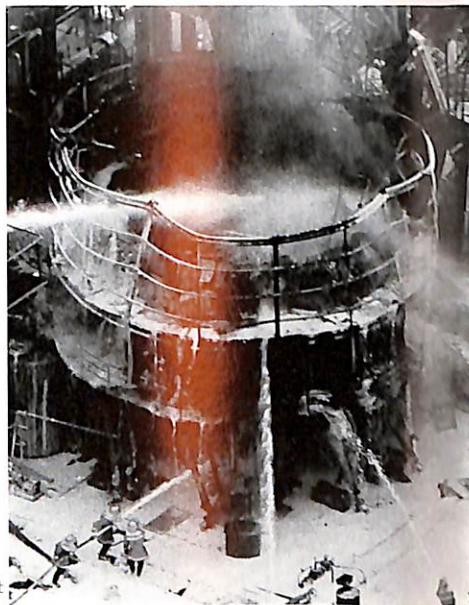
共同通信社

◀「ひとめぼれ」フィーバー（12月）人気下落に悩む「ササニシキ」の後継品種として、宮城県が開発し異常人気。各地にニセ物が出た。写真は、本物は「踊る天女」の袋入り、と宣伝する宮城県農業経済連。

共同通信社

▶元従軍慰安婦が日本を提訴（12月6日）屈辱を受けた韓国女性の勇を鼓しての行動だが、日本政府は関知せずとした。写真は会見する金さん（左）と原告団。翌年、政府は関与を認め支援事業を始めた。

毎日新聞社

▶食用油工場で爆発事故（12月22日）大阪・泉佐野市の不二製油で抽出装置を修理中、溶剤に引火。作業員8人が死亡した。6月にもぼやを起こし、消防署から指導を受けていた。

読売新聞社

読売新聞社

▶「欧州連合」成立へ合意（12月11日）EC首脳会議が、今世紀末には中央銀行創設、共通通貨を実現というマーストリヒト条約に合意。写真は、握手するミッテラン仏大統領（右）とコール独首相。

◀真珠湾攻撃50周年式典開く（12月7日）ホノルルのアリゾナ記念館を背に、ブッシュ米大統領が、宮沢首相の「深い自責」を紹介、「もう恨みはない」と表明、生存者ら5000人の拍手をあびた（写真）。

AFP／PANA通信社

平成3年12月

1（日）●ウクライナ共和国、八月の独立宣言の可否をめぐる国民投票、支持が九〇％で独立を承認。
2（月）●猿まわしの村崎太郎、芸術祭賞を受賞。
●宮崎県の土呂久鉱害「自主交渉の会」が、住友金属鉱山と和解。二〇年目で全面解決。
3（火）●バレーボール協会、リーグ優勝チームにアマ・スポーツ初の五〇〇万円賞金制の導入決定。
4（水）●パン・アメリカン航空が解散、最後の運航。
5（木）●甲子園球場でラッキーゾーンの撤去作業開始。
6（金）●韓国の元従軍慰安婦らが補償求め提訴。
7（土）●ハワイで真珠湾攻撃五〇年の記念式典。
8（日）●阿部文男代議士、共和から一億円受領認める。
9（月）●文部省、小学生の尿糖検査実施を決定。
●京都ホテル、六〇㍍の高層化ビル着工。
10（火）●中日の落合博満、史上初の年俸三億円獲得。
11（水）●EC、欧州連合（EU）創設に合意。
12（木）●原子力船「むつ」引退。原子炉は撤去。
●「週刊明星」三三年目のこの日、最終号。
13（金）●大阪・泉州沖の関西新空港本島が完成。
14（土）●日中が中国本土横断の日欧空路開設で合意。
15（日）●紅海でフェリー沈没。三八九人死亡。
16（月）●チャゲ&飛鳥の「SAY YES」など、シングル盤ミリオンセラーが空前の七曲と新聞に。
17（火）●井岡弘樹、世界J・フライ級王者に。
18（水）●米国で一五〇チャンネルの有線テレビ開局。
19（木）●ブッシュ米大統領、アジア歴訪を前に「米国の雇用創出、繁栄回復」の旅にすると声明。
20（金）●米国最大の玩具チェーン「トイザらス」、日本国内一号店を茨城県に開店。
21（土）●ソ連一一共和国、独立国家共同体創設に合意（25日ゴルバチョフ大統領が辞任、ソ連崩壊）。
22（日）●競馬の有馬記念で一四番人気のダイユウサクが勝ち、有馬記念初の単勝万馬券。
23（月）●吉野ケ里遺跡が国営歴史公園に決まる。
24（火）●金正日が朝鮮人民軍最高司令官に、と外電。
25（水）●横浜大洋の中山投手、幼児へ強制猥褻で逮捕。
26（木）●脳死臨調、脳死移植認める最終答申案に合意。
27（金）●企業交際費が初の五兆円台を突破と国税庁。
28（土）●ファミリーレストラン「すかいらーく」が盲導犬の入店認める、と新聞に。
29（日）●育児休業の普及率二割、無給五割と労働省。
30（月）●日銀、公定歩合を五％から四・五％に引き下げ。企業マインドの冷えこみ解消がねらい。
31（火）●日本の人口がこの年三九万人増で最低の伸び。

俄楽多市（がらくたいち）

流行語
あふれ返る"やさしい"商品

「地球にやさしい」。環境問題が脚光をあびるにつれ、車から食品まであらゆる商品が「地球にやさしい」ことをPRし始めた。その結果、世の中には地球にやさしい商品があふれ返り、ますますゴミをふやしてしまうことにもなった。

「カード地獄」。カードによる借金が溜まって、身動きができなくなること。すでに四、五年前から使われていたが、この年はカード破産が二万件を突破し、前年の倍以上。さらに破産予備軍が四〇〇万人と言われ、あらためて注目された。

「イラムカ症候群」。イライラし、ムカッときて暴力や犯罪に走る若者のこと。当時、「キレる」という言葉は若者だけに通じる用語で、社会では「プッツン」という表現が使われた。

「触れない族」。妻や恋人とまったくセックスしようとしない男性のことで、女性の体に触れることすら嫌う。その中には、女性嫌悪症から、女性は嫌いではないがセックスだけがイヤというケースまで含み、年齢も若者から中年男性まで広がっていた。

◀11月21日、千葉県銚子港から手漕ぎボートで太平洋横断に挑み、無事成功したG・ダボビーユさん。

共同通信社

社会
湾岸戦争で人気"アンネのバラ"

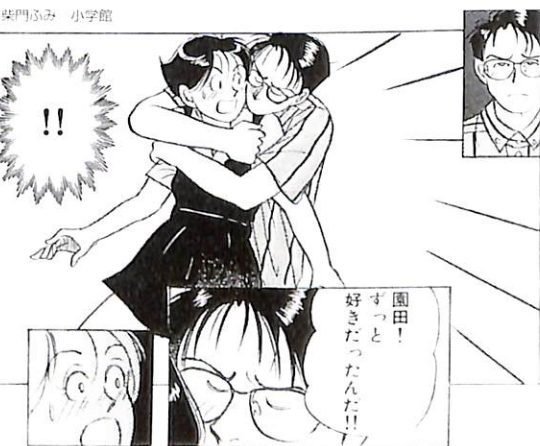
〔京都発〕第二次世界大戦時、ナチスに迫害され、強制収容所で死んだアンネ・フランクゆかりのバラに、注文が殺到している。

苗を育てているのは、京都府綾部市の私立高校教諭・山室建治さん（五〇）。このバラはアンネのナチ隠れ家の裏庭に生えていて、ナチスに捕らえられる前、アンネがこよなく愛していたと言われる。これをもとにベルギーの育種家が苗を作り、アンネの形見として父親のオットー・フランク氏に贈った。このバラはオレンジ色で、散る間際に赤っぽく変色するのが特徴。

山室さんのいとこが、イスラエルでフランク氏から苗木を譲り受け、山室さんの父の隆一さん（昭和六一年、七七歳で死去）が自宅で接ぎ木して株をふやし、それから建治さんと親子二代で、この一五年間に約六〇〇〇株を全国に送ってきた。

例年、申し込みは一〇〇人前後だが、平成三年は湾岸戦争の影響もあって、平和の象徴としてこのバラを育てたいという人が多く、例年の五倍、五〇〇人の申し込みが来ているという。（「読売新聞」大阪版・三月五日）

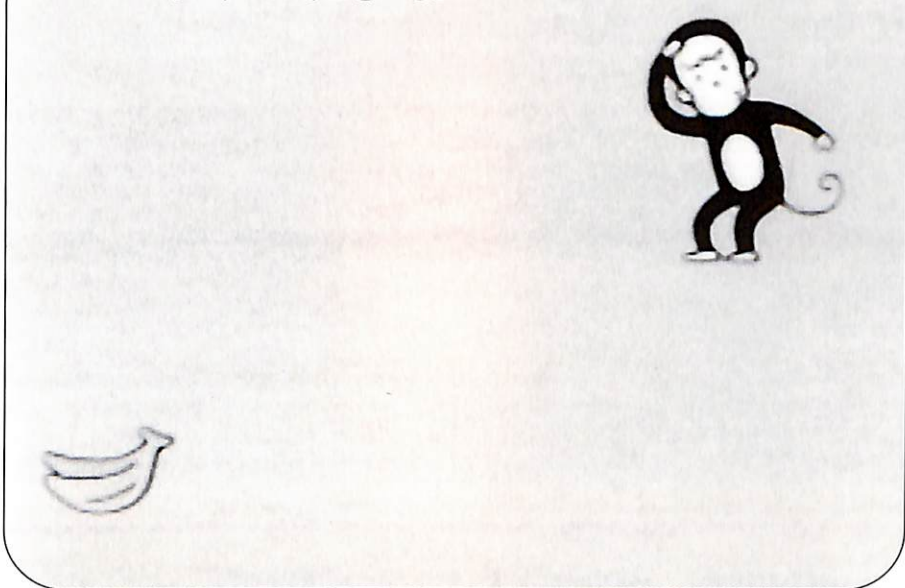
海外
昔なつかしい洗濯板をフィリピンで実演販売

〔マニラ発〕日本では見かけなくなった洗濯板を、フィリピンで普及させた海外青年協力隊の上田敏博さん（二六）が、その功績でフィリピンの労働雇用省から表彰された。

フィリピンでは電気洗濯機は六〇〇〇ペソ（一ペソは約六円）で、労働者の平均月収の三倍以上もするため、洗濯はもっぱら木の棒で打ちながら手洗いで行っていたが、これは布が傷みやすく汚れも落ちにくい。上田さんも下宿のおばさんにジーンズの洗濯を頼んだら、ジッパーが壊れてしまった。

上田さんの赴任目的は机や家具の製作指導だったが、これをきっかけに洗濯板作りを始めた。材料さがしとデザイン研究に一ヵ月かけ、その後訓練所で学ぶ二五人に洗濯板作りを伝授。上田さんは各地をまわって実演販売している。

板は一枚五〇ペソ、労働者の日当分だが、「短時間できれいに洗える」と、洗濯を職業としている女性たちに大受け。今では、全国一三ヵ所の訓練所で洗濯板作りが始まった。（「中日新聞」一二月一五日）

CM100年

テレビCF **「バザールでござーる」**（日本電気）

▲障害を乗り越えて、NEC製品の販売店に行こうとするサルが登場、人気キャラクターに。

©柴門ふみ　小学館

◀柴門ふみ画「あすなろ白書」の連載が「ビッグコミック・スピリッツ」四月一五日号からスタート。

三面記事
ニューミュージック調社歌

最近、コーポレートソングという名の社歌が流行している。それも若者向けのニューミュージック調がほとんど。たとえばキーコーヒーの場合、「浪漫航海」というタイトルで、

It's only my taste for you
香りあるメッセージ
船は走り続ける
琥珀色の時の中
魂のすべてを君へ　注ぐのさ
熱いこの愛を

と歌う。もうひとつの特徴は大物のシンガーをそろえたことで、キーコーヒーは楠木勇有行、資生堂は森川由加里、住友生命は椎名恵など、今をときめくメンバー。

最近は"部歌"を作るところもある。ただしこちらはだいぶ趣が違う。ロッテ商事菓子営業部が今月作った部歌は「闘魂」といい、

無情の風よ　我に吹け
血走る雨よ　我に降れ
（中略）
おお！　ロッテ、
立ち上がれロッテ

といった調子。作詞・作曲をプロに依頼する社歌と違って、部員が自分たちで作るとなると、つい企業戦士風の、士気を鼓舞するものになるようだ。（「毎日新聞」四月九日）

▲ビルを串刺しにした、阪神高速・池田線梅田出路の立体道路。

共同通信社

文化
ガマンの限界は五秒!? 日本人の"ぜっかち度"

日本人はせっかちというが、それを数字で見るとどうなるか？自販機のトップメーカー、グローリー工業によると、タバコの場合「硬貨やお札を投入して釣り銭が出てくるまでが三～五秒。タバコの銘柄を選ぶ段階を入れても五秒。それ以上だと、後ろに並んでいる人がいる場合、イライラしてトラブルのもとになる」という。

また銀行の両替機で、両替えされたお金が出てくるまでの限度は三〇秒。それをオーバーすると、利用者が不安を感じ始めることもわかっている。

このためハイテク技術の応用によって、その時間内で処理できるように工夫がなされている。（「神戸新聞」一月七日）

◀三月二四日、指宿市池田湖で、共同通信記者が北岸の湖面を波しぶきをあげて移動する生物を撮影。

共同通信社

子ども
男の子の宝もの一位は野球道具

第一生命が、全国一万四〇九三人の小学生を対象に"宝もの"の調査を行った。それを前回の八九年と比較してみると——（ここでは男の子についてだけ紹介する）。

	前回	今回
①	ミニ四駆	野球道具
②	昆虫	ファミコン
③	兄弟姉妹	昆虫
④	野球道具	ミニ四駆
⑤	両親	ゲームボーイ
⑥	ファミコン	自転車
⑦	犬	ガンダム
⑧	友だち	両親
⑨	自転車	家族
⑩	家族	プラモデル

（「大分合同新聞」五月二〇日）

▶五月、新宿で行われたイベントに、七三一個のダイヤ入りミニカーが出品された。

読売新聞社

この年の初もの

シンガポールをまねて東京・世田谷に屋台村

●**使い捨てコンタクト**　米・ボシュロム社とジョンソン・エンド・ジョンソン社が、日本発売開始。

●**車内電光ニュース**　小田急が、四月から二〇両の電車内で流し始めた。

●**女子ラグビー**　英国・ウェールズで第一回ワールドカップ開催。

はやり歌

火の国の女

作詞　たか　たかし　作曲　猪俣公章　編曲　京　建輔

肥後は火の国よ　恋の国
燃える中岳よ　胸こがす
一つしかないこの命
くれというならくれてやる
熱か　熱か
こころもからだも　熱か
惚れた女を抱きたけりゃ
火傷かくごで
抱かんとね　抱かんとね

肥後は湯の里よ　滾る国
菊池　地獄谷　血がさわぐ
たとえ地の底　針の山
来いというならついてゆく
熱か　熱か
情念も涙も　熱か
恋は一生ただひとり
それでよかなら
抱かんとね　抱かんとね

火の国の女　坂本冬美

東芝EMI提供

▶昭和六二年に「あばれ太鼓」でデビューした坂本冬美の、日本レコード大賞最優秀歌唱賞受賞曲。新世代の演歌を代表する曲でもあった。

愛は勝つ

作詞　作曲　KAN

心配ないからね　君の想いが
誰かにとどく明日がきっとある
どんなに困難でくじけそうでも
信じることを決してやめないで
Carry on, carry out
傷つけ傷ついて　愛する切なさに
すこしつかれても
Oh もう一度　夢見よう
愛されるよろこびを
知っているのなら　Oh

愛は勝つ　KAN

ポリドール提供

◀この年のレコード大賞受賞曲。KANが歌った。有線放送から人気が出て、テレビ番組の挿入歌に使われたこともあって、ミリオンセラーに。

世界の動き

ゴルバチョフの思惑を超えて進展した「ペレストロイカ」
“三日天下”に終わったクーデターが加速
世界が仰天した「ソ連邦」消滅！

一九九一年八月一九日、「ペレストロイカ（改革）」の旗手、ゴルバチョフ・ソ連大統領追放クーデターが勃発した。側近中の側近が引き起こしたこの政変は、モスクワ市民の勇敢な抵抗により三日間で挫折。皮肉にも、当のゴルバチョフを辞任に追いこみ、設立以来六九年間続いたソ連邦の解体を早める結果となった。

▶ロシア国民の意志と力により、クーデターは粉砕された。八月二二日正午すぎ、勝利集会で市民の歓呼にこたえるエリツィン・ロシア共和国大統領。　朝日新聞社

市民の必死の抵抗で挫折したクーデター

「なぜ殺したんだ。誰の命令なのか」

一九九一年八月二一日未明、雨の降りしきる暗闇(くらやみ)に、モスクワ市民の怒声が乱れ飛んだ。

その日、ソ連保守派のクーデター劇はクライマックスを迎える。市民鎮圧のため出動したソ連軍との衝突で、少なくともモスクワ市民三人が装甲車に押しつぶされて死亡、十数人が重傷を負った。

市民の怒りは頂点に達していた。午後になると、ソ連邦と対立するエリツィン・ロシア大統領（六〇）がたてこもる共和国政府庁舎前には、数万人の市民が集まり、石や鉄屑でバリケードを築き、ソ連軍との徹底抗戦の構えを固める。

AP／WWP（二点とも）

▲8月22日、ソ連秘密警察のシンボルだったジェルジンスキー（ＫＧＢの創設者）の巨大な銅像が撤去され、10月にはＫＧＢの解体が正式に決まった。

当時、朝日新聞社モスクワ支局員の島田博氏（現・朝日新聞社総合研究センター主任研究員）は、庁舎前に集まる市民のなまなましい様子をこう回想する。

「なにしろ四〇代、五〇代の年配が目立った。中央集権的な共産党の独裁下で育った人たちです。過去には絶対戻りたくない、という強い意志を感じました。また、我々はエリツィンを守らなければならない、なぜなら、彼は自分たち市民が直接選んだ大統領だから。ゴルバチョフは、ソ連邦の議会が選んだ人にすぎないとも言っていました。国外では軍縮などで、ノーベル平和賞を受賞して人気がありましたが、街頭で市民の声を聞いてみると国内人気はさっぱりでした。市民の意識はすでに、ソ連邦という枠を飛び越えていたのです」

クーデターの始まりは、二日前の一九九一年八月一九日午前六時八分（日本時間同日午後零時八分）のことであった。

「ミハイル・セルゲイビッチ・ゴルバチョフは、健康上の理由からソ連大統領の職務を執行することができなくなったため、私（ヤナーエフ副大統領）が一九日からソ連邦憲法一二七条七項の規定により大統領の職務を肩代わりした」

ソ連国営タス通信が、突如、大統領交代の声明を速報する。

クーデターの首謀者は、ゲンナジー・ヤナーエフ副大統領（五三）、ウラジーミル・クリュチコフ国家保安委員会（ＫＧＢ）議長（六六）ら八人。彼らはゴルバチョフ大統領（六〇）の側近だが、ソ連邦の財政基盤である徴税権を、加盟する共和国サイドにおくとする「新連邦条約」の調印を二〇日に控え、それがソ連邦解体につながるとの危機感を深めて、クーデターの挙に出たのである。

クーデター派の動きはすばやく、ただちに国家非常事態委員会がソ連邦の全権を掌握。モスクワ市内の要所には、T72戦車や装甲車など一〇〇台以上が配置され、ものものしい空気に包まれた。

こうした事態に対抗するため、ロシア共和国のエリツィン大統領は、一九日午前一〇時五九分、すべての兵士にクーデター参加の中止を、国民には無期限ゼネストに突入するよう呼びかけた。

クーデターはあっけない幕切れを迎える。発生からわずか三日目――八月二一日、モスクワ市民の必死の抵抗の前にもろくも崩れ去ったのだ。エリツィン支持にまわるソ連軍兵士の抵抗も加わり、ソ連軍の戦車には、次々とロシア共和国の三色旗が掲げられていった。

共和国の相次ぐ独立であやうくなった“連邦”

ゴルバチョフ・ソ連大統領が、幽閉されていたクリミア半島からモスクワ郊外のブヌコボ空港に帰還したのは、八月二二日午前二時（日本時間午前八時）。大統領は、クーデターを阻止したのは「一九八五年以来の『ペレストロイカ（改革）』の勝利」と指摘、エリツィン・ロシア共和国大統領らに謝意を表明した。しかし、すでにソ連大統領としての威信は薄らいでいた。

この年三月、ソ連邦体制の存続を問う国民投票が行われ、連邦を構成する一五共和国のうち、リトアニアなどバルト三国をはじめ、グルジアなど六共和国が投

▶九月五日開かれた、最後のソ連人民代議員大会。

往きて還らぬ

共同通信社

▲9月28日　マイルス・デイビス(65)
米の黒人トランペッター、作曲家。1944年にデビューし、その抑制のきいた演奏法は「クール・ジャズ」と呼ばれた。

▲6月10日　ディック・ミネ(82)
ジャズ歌手の草分けで、戦前は「ダイナ」「二人は若い」が大ヒット。戦後は「夜霧のブルース」などを歌った。

▲4月5日　升田幸三(73)
将棋棋士。大山康晴との名勝負で知られ、「新手一生」がモットー。引退後、実力制第4代名人の称号を贈られる。

▲1月2日　野間宏(75)
小説家。昭和21年『暗い絵』でデビュー、『真空地帯』が話題を呼んだ。46年『青年の環』で谷崎潤一郎賞受賞。

▲10月22日　春日八郎(67)
演歌歌手。昭和27年「赤いランプの終列車」、29年「お富さん」が大ヒットし、歌謡界に不動の地位を築いた。

▲8月5日　本田宗一郎(84)
実業家。昭和23年本田技研工業を創設。オートバイ生産から、37年自動車産業参入、本田を世界的企業に躍進させた。

▲4月16日　デビッド・リーン(83)
英の映画監督。「戦場にかける橋」「アラビアのロレンス」などの名作を残した。1984年ナイトの称号を受ける。

▲11月9日　イブ・モンタン(70)
仏のシャンソン歌手。「枯葉」で世界的に知られ、映画「恐怖の報酬」に主演。1961年以来、たびたび来日。

◀5月14日　江青(77)
中国の政治家、元女優。一九三九年毛沢東と結婚。文化大革命終了時、四人組リーダーとして逮捕、獄中で自殺。

▲1月29日　井上靖(83)
歴史小説の大家。昭和24年『闘牛』で芥川賞受賞。代表作は、大陸に取材した『天平の甍』『楼蘭』など。

◀11月22日　今井正(79)
映画監督。昭和二四年「青い山脈」が大ヒット。「また逢う日まで」「真昼の暗黒」「キクとイサム」などが代表作。

◀5月15日　安倍晋太郎(67)
政治家。岸信介元首相の長女と結婚。昭和三三年衆議院議員。農相、外相を歴任、六二年自民党幹事長となる。

▲3月25日　田村魚菜(76)
料理研究家。テレビの料理番組のパイオニア、"料理をショー化"したと言われた。著書に『魚菜のおそうざい』。

外から見たNIPPON

「南方特別留学生」A・ラザクが回想するヒロシマの日々

——佐伯　修

マレーシアの日本語教育とマレー語学の権威である、アブドゥル・ラザク・ビン・アブドゥル・ハミッド（アブドゥル・ハミッドの子、アブドゥル・ラザクの意）は、この年、「私のヒロシマ」という文章を書き、その中で述べている。

「私にとって、あの広島での出来事は私の生涯において最も重要な歴史となっております。一方、広島は私の第二の故郷でもあり、広島の人々は私の家族であると考えています」

一九四五年八月六日朝、広島文理科大学に留学中のラザクは、授業開始寸前の教室で原子爆弾に遭い、二人の友人を失った。そんなラザクは、前年の一九九〇年には、広島での原爆死没者慰霊式典に来賓として初めて参加。この年には、彼の主として日本での体験を小説化した、オスマン・プティの『広島の灰』（邦題『わが心のヒロシマ』小野沢純ほか訳）の日本語版が刊行された。先の「私のヒロシマ」は、ラザクがこの日本語版に寄せた一文である。

▲一九二五年、ペナン島に生まれる。
「わが心のヒロシマ」／勁草書房提供

一九四二年二月、日本軍は当時「英領マラヤ連邦」だったマレーシア全土を占領、クアラルンプールで見習い教師をしていた一六歳のラザクは、日本軍の「西警備隊日語学校」で初めて日本語を学ぶ。やがて、当時「大東亜省」が占領地で行っていた、日本留学事業「南方特別留学生」に選ばれたラザクは、東京・目黒の「国際学友会」でさらに日本語の実力をつけた後、四五年四月に広島文理科大学に入学した。

広島で、彼はインドネシアからの三人、ブルネイから一人の留学生と、大手町の「興南寮」で共同生活を開始する。この街の空気は、東京とはかなり違っていた。

「広島では、空襲警報のサイレンがあまり聞かれないし、ましてや爆撃もなく、平静な雰囲気でした。毎日の生活は質素ながらも普段どおりであったし、手に入るものは何でも食べました。東京にいた時にひどい経験をしていたので、広島での生活に文句はなかったのです」「また、月夜の晩などに、私たち寮生は寮の前を流れる元安川の川べりに腰を下ろして、懐かしい『ラササヤン』や『ブンガワン・ソロ』の歌を唱和して遠くの故郷を偲ぶことがよくありました。ともかく、広島は平静そのもので、何か落ち着いた雰囲気が感じられました」

そのすぐ後で、ラザクは「しかし、そうではなくなったのです」と書く。広島に投下された原爆は、彼の仲間のサイド・オマールとニック・ユソフ・アリ、そして「興南寮」とその寮母を奪い去ったのだった。

票に不参加、連邦の維持はあやうくなっていた。

追い討ちをかけたのは、六月のロシア共和国大統領選挙である。エリツィンが共産党のルイシコフ候補（前ソ連首相）に圧倒的大差で勝利し、ソ連邦を牛耳ってきた共産党の凋落は明らかだった。

今回のクーデターは、かろうじて結ばれていた連邦と共和国の絆を断ち切る結果となった。とりわけ八月二四日のウクライナの独立宣言は、ロシアに次ぐ力を持つ共和国だっただけに、その衝撃は大きかった。ロシア内の連邦機関はすでにエリツィンによって解体され、ソ連邦体制は風前の灯となった。そして一二月八日、ロシアなど三共和国が独立国家共同体（CIS）の結成を表明、同月二一日には一一共和国が独立国家共同体創設の議定書に調印、二五日にはゴルバチョフがソ連大統領を辞任。ここに、ソ連は設立六九年でその姿を消したのである。

「私は、一九九六年にヤナーエフ氏とお会いしました。彼はソ連邦の解体で罪をまぬがれたが、『クーデターは成功すると思っていた。しかし欧米の国々が支持してくれなかったのは誤算だった』と言っていました。ゴルバチョフ氏にもお会いしたが、彼には確固とした信念があるとは思えませんでした。民族独立や市場経済の進展など、『ペレストロイカ』によって生じる事態が読めなかったし、側近に裏切られるなど、まったく政治的判断が甘かったのでは」

こう語るのは、三菱総合研究所客員研究員の中村逸郎氏である。

ソ連邦の崩壊は、ゴルバチョフが掲げた「ペレストロイカ」の落とし子であった。民族の覚醒と民主化への市民の熱望は、ゴルバチョフの思惑を大きく超えていたのだ。しかも、一九九〇年一〇月の東西ドイツ統一による、市場経済の拡大と変化にも対応できなかった。まさに、「まわり舞台を演出しながらその速さを判断できないまま、自分が幕の陰に消えていった」（前出・島田氏）のである。

◀赤旗が降ろされ、クレムリンにひるがえるロシア共和国国旗。
読売新聞社

「ソ連邦」消滅への歩み

年月	出来事
'85年3月	ゴルバチョフがチェルネンコに替わり、共産党書記長に就任
'85年11月	軍縮に向け米ソ首脳会談始まる
'86年2月	党大会でペレストロイカ提案
'87年11月	ロシア革命七〇周年記念演説で、スターリンを批判する
'88年5月	アフガニスタンに駐留するソ連軍の全面撤退開始
'89年11月	東西ベルリンの壁が崩壊
'90年1月	バルト三国やアゼルバイジャンで、分離・独立運動が激化
'90年3月	リトアニア共和国が独立宣言
'90年5月	エリツィンが、ロシア共和国最高会議議長に選出される
'91年7月	ワルシャワ条約機構の解体議定書に調印する
'91年8月	保守派のクーデター起こる
'91年12月	ソ連邦が消滅

週刊 YEAR BOOK 日録20世紀

第92号 12月15日(火)発売 定価 560円
毎週火曜日発売 講談社 本体533円

1992［平成 4 年］

●**特集**
青春を駆け抜けたロックシンガー 尾崎豊、二六歳の突然死！／"縄文の常識"を一変した！ 北のまほろば、三内丸山遺跡発見／日本共産党名誉議長の裏切り除名！ 野坂参三のもうひとつの"顔"／虐殺、身体切断、レイプ…… ボスニア内戦「民族浄化」の狂気！

●**ニュース・ファイル**
フォト＋日録で再現する366日…脳死臨調、臓器移植を認める最終答申（1月22日）／貴花田、史上最年少優勝（1月26日）／PKO協力法成立（6月15日）／岩崎恭子、バルセロナ五輪水泳二〇〇平で金メダル（7月27日）／中国と韓国が国交樹立（8月24日）／毛利衛、宇宙へ（9月12日）／天皇・皇后、初の訪中（10月23日）

●**人物クローズアップ**
伊丹十三、暴力団員に襲われる！

●**決定的瞬間**
ロス暴動と韓国人街略奪の惨状

●**美の出会い**
人間・花・静物、メイプルソープ展の衝撃！

●**女たちの肖像**…桜田淳子、統一教会合同結婚式で挙式／**勝者・敗者**…マラソン・谷口浩美の「こけちゃいました」／**証言・あの日この日**…島田裕巳、向井万起男／**「現場」を歩く**…長良川、河口堰への疑問／**20世紀博物館**…太地町立くじらの博物館（和歌山）／**外から見たNIPPON**…「外タレ」サンコンと日本人の差別

●**ベストセラー**…『それいけ×ココロジー』／**スターと名場面**…「シコふんじゃった。」／**モノ語り'92**…「日清 ラ王」

■既刊好評発売中（既刊91冊！ 1900・1910・1920・1930・1940・1950・1960・1970・1980年代がそろいました）

一九一〇年代

第71号1911［明治44年］
第72号1912［大正元年］
第73号1913［大正2年］
第74号1914［大正3年］
第75号1915［大正4年］
第76号1916［大正5年］
第77号1917［大正6年］
第78号1918［大正7年］
第79号1919［大正8年］
第80号1920［大正9年］

一九二〇年代

第62号1921［大正10年］
第63号1922［大正11年］
第28号1923［大正12年］
第64号1924［大正13年］
第65号1925［大正14年］
第66号1926［昭和元年］
第67号1927［昭和2年］
第68号1928［昭和3年］
第69号1929［昭和4年］
第70号1930［昭和5年］

一九三〇年代

第43号1931［昭和6年］
第44号1932［昭和7年］
第45号1933［昭和8年］
第46号1934［昭和9年］
第47号1935［昭和10年］
第48号1936［昭和11年］
第49号1937［昭和12年］
第50号1938［昭和13年］
第51号1939［昭和14年］
第52号1940［昭和15年］

一九四〇年代

第19号1941［昭和16年］
第20号1942［昭和17年］
第21号1943［昭和18年］
第22号1944［昭和19年］
第3号1945［昭和20年］
第23号1946［昭和21年］
第24号1947［昭和22年］
第25号1948［昭和23年］
第26号1949［昭和24年］
第27号1950［昭和25年］

一九〇〇年代（最新刊）

第86号1906［明治39年］
第87号1907［明治40年］
第88号1908［明治41年］
第89号1909［明治42年］
第90号1910［明治43年］

■今後の刊行予定

▶第93号1993［平成5年］12月22日発売
皇太子・雅子さん、ご成婚！●「ダイオキシン」、母乳から検出●Jリーグ開幕！●"麻薬の帝王"エスコバル射殺

▶第94号1994［平成6年］平成11年1月6日発売
向井千秋さん、宇宙へ！●河野義行氏が語る松本サリン事件●平成「米騒動」●金日成急逝！

▶第95号1995［平成7年］1月12日発売
阪神・淡路大震災！●「地下鉄サリン事件」●「米兵暴行事件」と沖縄の怒り●「ウィンドウズ95」日本発売！

▶第96号1996［平成8年］1月19日発売
ペルー日本大使公邸占拠！●中坊公平、住管機構社長に就任●「O157」の恐怖●ダイアナ妃、離婚！

▶第97号1997［平成9年］1月26日発売
「酒鬼薔薇聖斗」の"心の闇"●「ナホトカ号」重油流出●「たまごっち」「プリクラ」大ブーム●香港、返還！

▶第98号1998［平成10年］2月2日発売
横浜ベイスターズ、日本一！●山一証券、最後の日●「毒物混入」魔の連鎖反応●「テポドン1号」の真相

バックナンバーは、お近くの書店でお求めください。創刊号のみ282円（税別）です。直接弊社にご注文の場合は、冊数に関係なく 送料200円のご負担となります なお 代金と送料は先にお送りください 申込先 講談社読者サービス係 電話03-5395-3676

ミニ事典
1991年のキーワード

岩手靖国訴訟
靖国神社への公式参拝を認め、同神社にささげる玉串料の支出を認めた岩手県議会決議を、憲法が定める政教分離に違反するとして、当時の県議会議長や知事に対し、住民が支出金の返還を求めた訴訟。一月一〇日、仙台高裁は一審判決をくつがえし公式参拝は違憲とし、方式に配慮すれば認められるとする政府見解を否定。九月、最高裁が特別抗告を退けたため、公式参拝と公金の玉串料支出を違憲とする判決が確定した。

毎日新聞社
▲1月10日、仙台高裁前で、靖国神社公式参拝の違憲判決を喜ぶ原告団。

院内感染
入院によってほかの病気に感染すること。病院にはメシチリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）のような、薬への抵抗力が強固な菌が多く、感染で死にいたることがある。東大分院で初期胃癌の切除手術を受けた後、MRSA感染症で死亡した会社員の遺族が二月一二日、滅菌などの対策が不十分だったとして、病院に損害賠償を要求、新聞に報道されたため、院内感染の恐怖が広まった。

成年コミック
未成年にふさわしくない性描写が載っているマンガ。二月から雑誌協会が作る出版倫理協議会が、楕円形の「成年コミック」マークをつけ、全国書店に少年少女への販売自粛をうながした。この頃、コミックに露骨な性描写が氾濫。前年、三一道県で一三一三冊もが青少年健全育成条例で、有害図書に指定されるほど。「成年コミック」マークは、出版業者のやむをえざる自主規制だった。

絶対評価
教育目標の到達度など、定められた基準をもとになされる個人の成績評価。文部省は三月一三日、戦後一貫して続いた、学級内で一定の割合で成績を割りふる相対評価は、いたずらに競争心をあおるとして、絶対評価に重点を移すよう指導。中学校は九一年度入学者から、小学校は九二年度から全学年で採用した。しかし、高校入試の内申書はこれまでどおり、五段階相対評価中心だった。

育児休業法
男女労働者の育児休業を保障する法律。働きすぎを海外から批判される中、五月八日に成立。労働者の当然の権利として、企業は申し出をこばめないとしたほか、復帰後の賃金や配置の休業前明示を企業の義務とした。しかし、同法には休業中の所得保障規定、違反企業の罰則規定がないため、実施したのは大手企業で二〜三割、その半分は無給で、労働団体などの不満を呼んだ。

『レッドデータ・ブック』
日本の野生生物のうち、すでに絶滅したもの、あるいは絶滅のおそれのあるものを集大成した本。環境庁が五月一〇日発行。絶滅危険度を五段階に分類、一の絶滅種にはニホンオオカミなど二〇種、二の絶滅危惧種にはニホンカワウソ、ヤンバルクイナ、タンチョウ、トキなど四九種を分類、全部で二五〇種の脊椎動物を取り上げ、それぞれの特徴を記した。

ノンバンク
信販会社、消費者金融業者、リース業者など預金を預からずに（ノンバンク）融資する会社。親会社に銀行や建設会社が多く、激増する不動産関連業者などへの貸し出しは、ノンバンクを隠れ蓑にした「迂回融資」で、地価高騰を招く要因だとして問題となった。大蔵省は五月、「貸金業の規制等に関する法律」を一部改正、業者に毎年の事業報告書提出を義務づけて規制をはかったが、バブル崩壊で未回収の巨額な融資が、現在大きな問題を生じさせている。

北京宣言
北京で行われた「環境と開発に関する開発途上国会議」が、六月一九日の閉会に際して採択した宣言。途上国が貧困と環境破壊の悪循環におちいっているのは、産業革命以来、先進国が築きあげてきた使い捨て・過剰生産の国際経済構造にあるとし、途上国への資金や技術援助を柱とする、新しい経済秩序の確立を求めた。この宣言は、翌年の「地球環境サミット」開催に向けた、先進国に対する途上国側の先制パンチとなった。

葬送の自由
死後のあり方の自己決定権は基本的人権のひとつで、葬送は墓地・埋葬法に縛られないという立場。一〇月一五日、市民グループ「葬送の自由をすすめる会」が、「海の好きだった故人の気持ちをくんで」三〇年前に失恋自殺した女性の遺骨の一部を海にまいたと発表。法務省も「節度を持って行う限り違法でない」と追認したため、墓偏重の日本の葬送のあり方を再考させる契機となった。

中東和平会議
湾岸戦争後に中東紛争の当事者、アラブ諸国とイスラエルが初めて勢ぞろいし、和平をめざした会議。一〇月三〇日から三日間、スペインのマドリードで開催。共同主催国の米ソと参加四当事国五代表が演説。イスラエルが占領しているシリアのゴラン高原と、レバノン南部が争点となったが、パレスチナ暫定自治政府設置で相互が歩み寄り合意。歴史的和解へ重い一歩が踏み出された。

読売新聞社
▲10月30日、中東和平会議開催。イスラエル首脳とパレスチナ代表が初めて同席した。

セクハラ
セクシャル・ハラスメントの略。職場などでの性的嫌がらせ。一二月一三日、熊本市の女性市議が熊本県議から、パーティー終了後、セクハラを受けたとして、強制猥褻と侮辱罪で告訴。日本でのセクハラ問題は女性たちの提訴で、二、三年前から社会問題化し、企業も職場での防止に乗り出していたが、一〇月、米国上院が開いたセクハラ公聴会が、職場の人権問題から政治問題に発展するにおよび、論議が活発化していた。

毎日新聞社
▲セクハラを受けた、と熊本県議を熊本地検に告発した北口市議。

週刊YEAR BOOK／日録20世紀 1991
CONTENTS

●編集
講談社総合編纂局
アート・ディレクター 山口至剛
表紙デザイン 山口至剛デザイン室（茂村巨利＋渡辺裕）
本文レイアウト デザインオフィス八起き
編集協力 有エービーシープレス 株カマル社 株コミュニケーションハウス・ケースリー シド・プロ 有マックス 有マライカ
飯田守 小原伸夫 鍵和田良輔 菊地美優貴 小松邦宏 張替政展 藤森雅弘 森邦久 結城順一 吉田忠正
●写真協力
CHRISTO AND JEANNE-CLAUDE 小松山毅彦 柴門ふみ 澤村誠志 但馬一憲 SANDRO TUCCI ウルフガング・フォルツ 柳正彦 JACQUES LANGEVIN IPJ 朝日出版社 朝日新聞社 AFP AP 共同通信社 勁草書房 サンテレフォト Sygma 小学館 中国新聞社 日刊スポーツ PANA通信社 PPS FRIDAY BLacks tar 報知新聞社 毎日新聞社 読売新聞社 ロイター WWP オフィス北野 松竹 スタジオジブリ 東芝EMI ポリドール 小樽ヴェネツィア美術館 JRA 日本相撲協会 兵庫県立総合リハビリテーションセンター

週刊YEARBOOK 日録20世紀 1991

●雲仙普賢岳、恐怖の大噴火 12月22日号

第2巻第48号 通巻91号 平成10年12月22日発行（毎週火曜日発行）

編集人 近藤達士

定価560円

雑誌 23714-12/22 T1123714120563
Ⓛ-2001/1/1

印刷 凸版印刷株式会社 製本 大村製本株式会社